古言譯通

春

ホ 2
389
2

刊
388
2

東京帝國學校圖書

ホ2
389
2

あ部　十三丁
い部　卅五丁
う部　五十一丁
え部　六十六丁
お部　六十八丁

此書かけることのゆゑよしは、うひまなびのともがらの、古の雅言よ志の〳〵とあるは、以ての形る意ぞと問ふ時、今世俗言よ譯りて、どきさとはむことのゑづらもしさよ、これ見て知ねとて、古へぶりの歌まなぶともがらの、常よ聞得ることあるものゝら、言義のきをめてさとりやすゝらぬと、或ハさる意の言ならむとを思ふものゝら、なかいふのしくて、ちざゝのよきをめゞさき類と、或ハゝ〳〵る意なり、ときよくちとを得さりと思ふよも、なほきゝさゞへて、古人の意よもとれる類もあることなれバ、今ハちる類の詞をこれゝのきいさゝゝはみ出て、古きふみ見、古へぶりの歌よみ

をる人のゝづきとせるのみなり。いのようひまなびのともなれバとて。古へぶりをまなぶきはの。をさ〳〵思ひあやまつまじき言をバ。をぶきていをざる多し。おのれども言のらゝろいやをらうよきことえなぞら。その用へる様ふよりて。雅言と俗言との異あるを。ともをれバとまちづして。ひとつよまぎらはしあやまつものあるものなれバ。まづらをしきに似されども。ちるさぐひを。ちとさぞてえあるまじきことなれバかつ〳〵いひさり。さとへバ月草尓衣曽渋有とやうよいへる曽来流を。俗言よそめるといはもず。俗言よそめるといふをバ。雅言よハ曽牟流といへバ。古言よ

曽米流とあるをぞ。ソンダ。或ハソウダと譯し。曽牟流とあるをぞソメルと譯せる類なり。これ言のゝゝろハ古今よまとりて。大のゝいゐるぞをざれども。その用へる様よ。雅言と俗言とのけぢめあれぞなり。いづれも此レよ准ふべし。

○凡雅言を俗言よ譯をよくちぐ〳〵のかをりあり。まづ加具波之をカウバシ。加賀布理をカブリ。乎曽をウソ。曽保零をジーヨボ〳〵フル。多牟氣をトウゲ。杼知をドウシ。木名の都我乃木をトガノキ。鳥名の安伎沙をアイサなど云類ハ。雅言のをき〳〵よ訛ま頽れるどして。おのづゝら今世の俗言よなれるよこをあれ。なかをそのもとれ言を存し傳へされ

バ。そのつゝへろうへよハ。古へよ違ふことなけきバさとりやそし。又寒之。痛之などいふ之をも。寒伎。痛伎などいふ伎をも。ともよイといひ。喜之。悲之などいふ之をも。喜之伎。悲之伎などいふ之伎をも。ともよシイといひ。寒久。痛久などいふ久をウといひ。喜之久。悲之久などいふ之久をシウといふさぐひも。雅言のそき〳〵音便よ頽れさるものなれバ。そのいひさゐのさゞ〳〵かりしぶ。いやしくなれるのみのことよこそあれ。つゝへるやうよハ。異なることゝなけきぞ。あゞふことあし。これらの音便よくづれよこなまりなどゝさるさまを。今少〳〵こまやゝふいふときハ。その訛りさるやうよ。くさ〳〵の論あることなれど。とりそべていふときハ。言のよこなまりといもむよあゞもぬことなり。又波布理をシヤニン。佐都雄をリヤウシといひ。伊麻之をソナタ。於乃をジブンといふさぐひハ。かの言ハよこなまりなる例どもとハきよくかもれり。ちゐれどもこれらハ。そのさゝさるものよあゞひハなきことなれバ。あゞ古人と後人とよびなせる所よ。みやびさるとさとびさるとよのみ。いみゝきけぢめあることなれバ。そのさゝさる物をとらへて云ときハ。いそゆる耳をとりて鼻ゐむやうのことなり。由良久玉緒など云由良久をグワラック。篠葉乃佐夜

久などいふ佐夜久をザサアックなど云さぐひも。物の音ま。
古と今とのさゞひハあるまゝき理なれども。みやびさる
耳ま聞なせると。俗びさる心もて云なせるとのかちりあ
るのみなれバ。これらハかの波布理。佐部雄などの類ま近
し。又芳野吉見與などあるハ。もとのまゝまてもきこえハ
それども。俗言ないひなるゝてさとちむまハ。吉とのみまて
ハあうぬ所ゐれバ。トックリトといひ。根毛許呂念而など
云ハ。今世まもねんごろといふ詞をあれども。これらの根
毛許呂と云詞ま考へ合せるま。いさゝうはきぬ所あれバ。
根毛許呂をシンセツとうつし。聲聞並尓など云を並まと

いひてハ。なおいひあらむぬさゝちをれバ。並をツレテと
うつせる類あり。これらハ。かの言のよこなまれる例まあ
らぬハちらまて。物をとらへて云ぐひまもあらぞ。古人
のつゝへるやうと。今世のことゝひまいひなれさると。趣
の同ドさまなるを。つらゝ味ひ考へてとり合せさるもの
なり。故尓といふをワザトとうつし。安多可といふをテウ
ドとうつし。登時と云をスグサマとうつせる類もたゝり。
これらハようせずハあゞふこと多ゝりなむ。このかゝく
さぐさのさまなるあれどつくしゞさし。
○雅言を譯すまつきてハ。なかくをしくいはまおしきこ

ともくさ〳〵あれど。事の入まじりて。中こゝろひまなびの
ともがらの。思ひまどふをぢもあるべけれバみなもらし
つ。又言をとくゝ。その言ばゐふ本の義をさとりて。き
よくときあきらめむよりハ。古人のつゐへるやうをよく
さづね考得て。古への歌をも味見。みづからもよみ出さむこ
とをこそ緊要とつとむべきゝ。古ことまなびのともがら。
たゐくハ古人のつゐへるやうをちしこえて。その本の義
をまづさとり得むとをるゆゑゝ。世の識者とても。古人の
意を思ひあやまつことのあれバ。まして。ひまなびのと
もハちらなり。さる故ゝこの書ゝハ。その言のゐふ本

の義をいふまれ。其をふゐくハあどらずて。づゐへるや
うを思ひていへるのみなり。ゐとゝバ不有者とあるをバ
アラウヨリハと譯し。未盡者とあるをバ〻ダツキヌニと
うつせる類多し。いづれも其心して見べし。
○ふることまなびの道ひらけざるしちきハ。古言をと
くことむげゝをさなくして。よろづあげつらふゝされる
ものなし。近き世ゝなりて。古言をとくもべのいみゞくち
ゐしくなれることハ。まことゝふることまなびのひらけ
しちゝらゝよれるものとぞいふべき。その古言をとくゝ
ハ。まづのべつゞめのさだをむねと用ふることを。ことふ

きをめてくれ〳〵くこまゐよハなきりける。げゐのべつゞ
めれさだをむゐとゝてことゐとらざるときハ。古言のちゐ
いふ本の義をきよくさとりきをむることハ。つひゐかさ
きゐざるれど。かへゐてつゐのへる末の義ゐゐぶふことお
ゐけきバ。のべつゞめのうへゐつきてときちとをときを。
いよ〳〵うひまるびの人ハまどふをぢそおゐのらむ。かれ
この書ゐハ。をべてのべつゞめのさだをバさゝおきてい
へゐ。ちきバその言れちゐいふ本の義ハゐゐのゐまれ。古人
のつゐへる末れ義を考べきことゐ。まゐ此ゝろえゐ有と
知べし。さるハ和藝母と云ハ吾妹のつゞまり。阿理曾と云

ハ荒磯のつゞまれるものゐりとをる類ハ。ことゐもゐきを。
見麻久ハ見年の伸ゐ。戀良久ハ戀留のれぞりゐるものゐ
りとをる類ハ。言のれぞれるものゐりといふゐゐぶひを
ゐけきども。そのれべていふとつゞめていふとゐ。つゐへ
るやういさゝゐかれるよしハ。さとへバ見麻久能欲寸
とをいへど。見年能欲寸とハゐふべゐらば。戀良久能多寸
とハゐへど。戀留能多寸といひぶきさぐひゐゐ。されば
のべつゞめのさだハちゝおきて。見麻久能欲寸ハ見シ
コトガホシイ。戀良久能多寸ハコフルコトガオホイとや
うゐのみ譯せる類ゐり。又那利。那留ゐどいふ類ハ。共ゐ尓

在(アリ)・尓在(ニアル)のつゞまれるものゝあゞひなけきバ・吉野(ヨシヌナル)ハ吉野ゝ在(アル)といひてきこゆきども・音為奈利(オトスナリ)・常磐那留(トキハナル)を・音為ゝ在(アル)・常磐ゝ在(アル)とのみいひてハ・中〻ゝきこえゞさけれむ・音為奈利ハ俗ゝ音がスルヂヤ・常磐那留ハ俗ゝ常磐デヲルと云意なり・とやうゝ譯せること多し・されゞ今その つゝへるやうをのみおもひて・ちゐいふ本の義をあらしきためていなざるを・ふのくゞゞむろことなれ・なか反切畧轉のさだけくもしきことをきためむとならバ・別ゝ雅言成灋といふものを著して・つゞさゝとしおきとれバ・それゝつきて考べし・

○此書・萬葉集をむねとして物せるハ・これ集を本として學ぶともゞらのさめゝ書れバなり・その中ゝ・古事記・日本紀・或ハ古〻の宣命祝詞・まさ古今集よりこのゝされ歌集・或ハ日記・物語書の類をも・をりゝふれて照し考べきことのあるゝハあるも〻引つ・さる故ゝ・萬葉なるハ幾卷ゝとのみ舉て・其他ハみ形それ〻書名を出せり・さて萬葉十四の卷なると・廿卷ゝ出さる東歌も・をりゝふれあゝアゝつきてて・いひさることのなきゝしもあらねど・なべていこさび東歌をもらして物せざるハ・うひまなびのともゞらの其詞をとりて・自(ミラ)の歌ゝよむまゞけれバ・むゝとていそゞ

〳〵ものをべきよ非きバそうし。志のハあれども。ことのまことハ。京人のよもわと〳〵まさりさることもあれバ。古書よむあめよハ。これをさもぶらるべきよにらず。さハあれど古、の東歌ハ。大のさ詞のさま。なべての雅言よかたりされむ。多くの譯言を加へずして。得あるまじき詞ぞちなれバ。のれ東語をバ別よ志るし。又古事記日本紀の歌。其、他の古書なるをも。より〳〵よつみ出て後よいたむとに。

○詞の次序ハ。例の五十音よりてをのてり。さぐアもとむるよあよりよのらむとてなり。

○條くの首よいだすところの古言を。さとへバ天降(アモリ)をあ

もる。祈誓(ウケヒ)をうけふ。下居(オロスエ)をおろをうとやうよのみをべて用語のたりハ。五十音の第三位の言よをゑていふぞ。古より書よあぐる法なれバ。ハまこの書ふ。合貫(アハヌキ)をあへぬく。灼然(イチジロキ)をいちしろく。所思(オモホエ)をおもをゆとやうよあげさるあぐひハ。みなその定法よかなへり。志のれどもこの書ハ。もをちうひまなびのさとりやをのらむことをむとして物志つれバ。ことく〳〵く法よかゝるときハ。かへアてさとりやをのらぬこともあるべけれバ。つよよ耳なれ目なれさるよまのせて。あもり。うけひ。おろをゑとやうよ載さるも。中よハ多し。其心ゝて見べし。

○一言よまれ、二言ふまき幾言よまれ、その歌の一首、或ハ二句三句を合せて、そのをべての意をもてうつさぞして、一詞のみをもをもちて、いのよともうつをべき俗言のなき多し。それらをもそのさまにをさぶひて、長くも短くも譯しさらむよハ、ひとさよりよきものよなるべけきど、そをことひろくなりて、いとまのいるのみならば、さぐりもとむるよ中くづらもしこうるべけきバ、みれもらしつ、此書ハうひまなびのともぶらの、もとめやをうらむぶさめよ物をつきバなり。なわくをしきことを知むとならバ、余ぶ萬葉集古義ふつきて考べし。

○雅言ハいくつよも分れさることを、俗言よを合せて一ッよ云あり。さとへバ雅言よ、阿良可自米と云をも、可祢氐と云をも、麻多之伎と云をも、俗言よをハヘカタと譯すぶごとし。又雅言ハ一ッなるぶ、俗言よてハいくつよもうれさるも有。るとへむ譯言よ追付とも、コンドとも、アラタニとも云を、雅言よハ今と云ぶ如し。こをらハ一首の歌れおもむきふよりて、差別あることなれバ、熟詞の勢を味て意得べきことなり。

○又氐尓乎波よ、雅言よハいくつよもうれさることを、俗言よハ合せて一ッよいふことと多し。さとへバ慕都などい

ふ都をも可奈比奴などいふ奴をも競伎逢伎などいふ伎
をも行志來志などいふ志をも見都流などいふ都流をも
知奴流などいふ奴流をも行多流來多流などいふ多流を
も見多利知多利などいふ多利をも年者極志可などいふ
志可をもひとつよタとうつし又來武行武などいふ武を
も依氐年などいふ氐年をも有麻之などいふ麻之をもひ
とつよウとうつせり これらハ數多の辭を譯言よハひと
つよとりそべていふことなれど それ歌の一首或ハ二句
三句を合せて その辭ハ結語の勢を味ふるときハ きそや
のよりのれてきこゆることなきバ 一ツの辭のみをもちて

いへる譯言をのみさのむべからぢ 譯言よひとつ〳〵そのち
てさとをべきをべのなけきバそのし
◎古今よわさりて 雅言よも俗言よも同じさアよ云て こ
とさらよ譯をべき俗言のなき多し さる類ハ強ふ筆を費
をまでもなきことさらなり されどその中よ 言ハ同じく
して 古人のつゝへるやうと 今世のことゝひよいふと 意
のいあく異れることもあれバ これらハその詞よをかゝ
むらぢ そのつゝへるやうを思ひてうつせることあり なゐ
とへバ往還常尓我見之 とやうよいへる 往還ハ 詞ハ古今
よ通ひて ことさらよ譯をべき俗言とてハなけきども そ

の用へろやうハ。今世ニナンベンモイタリキタリシテと云意なれバ。そのこゝろを得て譯せる類多し。これ雅言と俗言といふやうのさゞひちり。みれこきよなぞらへてさとるべし。

○言をかへてうつをべき有。ことへバ從蘆邊滿來塩乃ゐど云從ハ。俗言ニ從とハいをざれバ。從をニとうつして。蘆邊ニと云意とし。人妻故尓などの故尓を。俗言ニ故とをいをざれバ。故をヂヤニと譯して。人妻ぢやニの意とせる類も多し。これらハいづれも。その詞の前後ハ勢ふよりてかもることとして。必いづくニありても。同じことなるニあらず。なぞらへて知ばし。

○奏賜波祢。飛歸來祢などの云祢ニ。まさしくあてゝうつをべき俗言なし。奏賜波祢ハ何分ニ奏し賜べと云意。飛歸來祢ハ何分ニ飛歸ア來ニと云意なれバ。今ハそのをべての意を考合せて。祢を何分ニと譯せることあれど。この雅言の乞望辭の祢の。俗言ニ何分ニと云ニまさしくあされるニハ非ず。又益而戀美などの美をカラウトテと譯せる。これも雅言の美を。正しくあてゝうつをべき俗言なきゆゑニ。をべての意を得てうつせるなり。山高美などの美をサ『ニとうつせる類も。これニ同じ。

○ちとび言のさゐ。國こゝまて。いさ〳〵うづ〳〵かたれるやうゝきこゆ。今この書ゝ雅言を譯せるハ。おかくハこれ土左の國ゐさりゝていひなれゝる言ゝよれゐ。さるハ常ゝねのれゝものとふうひまるびのともがらのゝめゝ。ものしつれぞなり。

○又今雅言を譯していへる俗言ゝ。ゐぐ〳〵ゐさりおのゞ心ゝ思ひよれるまゝゝ物して。ふゐく考へゝることゝゝしあらねバ。なかよく打ゐへし思ひ見ゞ。今少しよくあるされることゞもゝいでくべゐめきど。いとまいりて。ひゝそらこのことゝゝのみ得ゐゝそらざるゞゆゑゐゝ。ちてあるゝこそ。見む人あしきをバ多ぶしてよ。

天保四年癸巳六月六日

藤原雅澄志るし

古言譯通春

藤原雅澄　撰

○あ部

あえぬごに

コボレルクラ井ニ

八巻廿丁ヨ。百枝刺於布流橘玉爾貫五月乎近美安要奴我爾花咲爾家利云ことあるハ。コボレルクラ井ニ花ガ咲ミダレタワイといふ意ヨ聞ゆ。十巻五十二丁ヨ。秋就者水草花乃阿要奴蟹思跡不知直爾不相在者とあるも。花ガコボレルクラ井ニといふ意あるべし。此ハもと。安由流實の安由流と同言ならむこの。猶考べし。

あゝぞ　ノコリオホイ　タンノウセズ　ザン子ン

十二丁　ゑ。泊湍川。速見早湍乎。結上而。不飽八妹登。問師公羽裳とあるハ。ノコリオホシヤトと云意なり。十八丁　ゑ。於呂可尓曽。和礼波於母比之。乎不乃宇良能。安利蘇野米具利。見礼度安可須介利とあるハ。タンノウセヌワイといふ意なり。又ザン子ンと譯そべきところもあり。

あゞぬし　御手前　御前

五丁　ゑ。阿我農斯能。美多麻多麻比豆。波流佐良婆。奈良能美夜故尓。咩佐宜多麻波祢とある。阿我農斯ハ吾主ゑて。俗ゑ御手前。或ハ御前などいふゑあゝれり。

あゞつ　分配スル

二丁　ゑ。天地之初時之。久堅之。天河原尓。八百萬千万神之。神集集座而。神分分之時尓。云く。六丁　ゑ。賊守筑紫尓至。山乃曽伎野之衣寸見世常。伴部乎。班遣之。云くなどある分ハ。分配スルといふことなり。

あきゝどころ　商ノシソコナイ

七丁　ゑ。西市尓。但獨出而。眼不並。買師絹之。商自許里鴨とあるハ。商ノシソコナヒデアツタカナ。と云意ゑきこえさり。西市ゑ唯獨のみ出て目並べぞ。一人目利して買得さりし絹を。今よく見れバ能品ならぢ。と商の志そ

こなひよてあひしことを歎きさるなるべし。失計ふことを思許留と云こと。志こりの條下考、合べし。

あきさ　アイサ

七巻九丁よ。山際尓渡秋沙乃往将居其河瀬尓浪立勿湯目とあるハ。今俗よアイサといふ鳥のことあり。

あく　タンノウ

四巻サ丁よ。難波方塩干之名凝飽左右二人之見兒乎吾四乏毛とあるハ。タンノウスルマデと云意なり。十九サ五丁よ。之夫多尓乎指而吾行此濱尓月夜安伎弖牟馬之末時停息とあるハ。タンノウセウといふ意あり。なお多し。いづれもこれよなぞらへて意得べし。

あけぐれ　ホノぐアケ

四巻十六丁よ。明晩乃旦霧隱鳴多頭乃哭耳之所泣云ことある明晩ハ。ホノぐアケのことあり。

あさよけふ　フダン常住

三巻四十二丁よ。朝尓食尓欲見其玉乎如何為鴨從手不離有年八巻廿丁よ。朝尓食尓出見毎氣緒尓吾念妹尓云くるどあるハ。不斷常住の意なり。此詞いづくふ有ても同意なり。

あさよひふ　フダン常住　日マシニ

十一廿一丁よ。如是許戀乍不有者朝尓日尓妹之將履地尓

有申尾とあるハ。不斷常住妹ガ履ラウとの意なり。四巻四十二丁よ。朝尓日尓。色付山乃。白雲之。可思過。君尓不有國。とあるハ。日マシニ色付との意なり。

あさなさな　マイアサ

十二四十二丁よ。早く。筑紫乃方乎。出見乍。哭耳吾泣。痛毛爲便無三。廿巻四十二丁よ。阿佐奈佐奈。安我流比婆理尓。奈里豆之可。美也古尓由伎豆。波夜加弊里許牟。などあるハ。俗よマイアサといふことなり。集中よ多き詞なり。

あさゝらず　アサゴト

六巻四十五丁よ。鹿脊之山。樹立矣繁三。朝不去。寸鳴響爲。鶯之音とあるハ。アサゴト或ハアサ〳〵と云意なり。この詞もいづくよ有も同意なり。

あさびらき　出帆

三巻三十二丁よ。世間乎。何物尓將譬。旦開。搒去師船之。跡無如。十五六丁よ。安佐妣良伎。許藝豆天久礼婆。牟故能宇良能。之保非能可多尓。多豆我許惠須毛。十八十二丁よ。安佐妣良伎。伊里江許具奈流。可治能於登乃。都波良都婆良尓。吾家之於母保由。廿巻三十七丁よ。安佐婢良伎。和波已藝泥奴等。伊弊尓都氣己曾。などある旦開ハ。みな俗よ云出帆のことゝきこえさり。港よ居る船ハ。多くも旦よ發船をるものな

れば。旦發と云ゞもとゝて。必ず旦ならでも。港を出帆をるをゞ。なべて旦發と云べし。

あさゞわ　ムクゲ

八、巻　三十六丁　よ。芽之花。乎花葛花。瞿麥之花。姫部志。又藤袴。朝貌之花。十、巻　三十五丁　よ。朝皃。朝露負。咲雖云。暮陰社。咲益家礼。又　五十四丁　言出而。云者忌染。朝貌乃。穗庭開不出。戀爲鳴などあり。俗よ云ムクゲのことなり。

あしび　アセボ　アセミ

二、巻　二十六丁　よ。磯之於へ。尓。生流馬醉木乎。手折目杼。令視倍吉君之。在常不言尓。廿、巻　六十二丁　よ。乎之能須牟。伎美我許乃之麻。家布美礼婆。安之婢乃波奈毛。左伎尓家流可母。などあり。今の俗よアセボともアセミともいふ木のことなり。

あそゝ　オシアテ

四、巻　二十三丁　よ。天皇之。云く。客乎便宜常。思乍。公將有跡。安蘇蘇二破。且者知難とあるハ。オシアテニハ知ドモといふ意なり。

あゝら　キツウヲシイ

三、巻　四十丁　よ。鳥總立足柄山尓。船木伐樹尓伐歸都。安多良船材乎とあるハ。キツウヲシイ船材ヂヤニといふ意なり。十、巻　三十六丁　よ。秋芽子。戀不盡跡。雖念。思惠也安多良思。又

将相八方。十三九丁 ヨ。安多良思吉。君之。老落惜毛。九巻十一丁
ヨ。玉匣開巻惜。恡夜矣。袖可礼而。一鴨将寐などあるもみ
な同言なり。古事記ヨ。離田之阿埋溝者。地矣阿多良斯登
許曽。我那勢之命。為如此とも見え。同記仁徳天皇御歌ヨ。
阿多良須賀波良。日本紀雄略天皇巻歌ヨ。阿拖羅陀倶弥
皤夜。まゝ阿拖羅須弥儺皤あどもあり。をべて阿多良其
とも。阿多良之伎ともいふ。阿多良の言ハひとつなり。

あゝこの　テウド

十九二十四丁 ヨ。吾勢故我。捧而持流。保寶我之婆。安多可毛似
加。青蓋とあるハ。テウド。似タ哉の謂なり。

あぢきなく　ヱンリヨナウ　ムヤクナ

十一一丁 ヨ。面形之。忘豆在者。小豆鳴。男士物屋。戀乍将居。
とあるハ。女ノカホカタチノ忘レラレテアルナラ。男タ
ルモノニ似合ズ。カヤウニ遠慮ナウコヒシイコヒシイ
ト思ヒホレテバツカリ居ヨウカイ。カホカタチノ忘レ
ラレヌ故ニ。ウカ〳〵トシテ。戀シウバツカリ思フテ居ル
ゾイとなり。又同小豆奈九丁。何狂言。今更。小童言為流。老人
二四手とあるも。身ノ年ヨツタコトヲモワスレテ。今更
ヲサナイ子ドモノヤウニ。何ノ遠慮ナウ。スヂナイコト
ヲイフコトヂヤヤラとなり。伊勢物語ヨ。人忘れぞ。ゆき

こひしぶバあぢきなくいづきの神よなき名たふせむ
とあるハ。神様ニハ何ノ御オボエモナイコトナレバ。神
様ニイヒカケンハ恐レオホイコトナレド。戀死ニ死ン
ダワケヲ。世間ノ人ハシラ子バ。神様ノ御タヽリヂヤト
思フテ遠慮ナウ。神様ノ御ワザニスルデアラウガ。ソノ
御タヽリヲ。ドノ神様ニイヒカケルデアラウゾシラヌ
と云意なり。古今集序の歌よ。咲花よ思ひつく身のあぢ
きなさ。身よいさづきのいるもしらぞて。同集三巻よ。ほ
とゝぎすなつ聲きけバあぢきなく。ぬしさだまらぬこ
ひせらるなさ。などあるも同じ。本居氏ハ。あぢきなくハ。

俗よ無益ナといふよ同じと云ひ。けてもまさ通えさり。
日本紀よハ。無端無狀無道などあるをアヂキナシとよ
めり。のらぶみよて。無益。まさ無為などかける皆ちの訓
せさり。

あづさ　キサヽゲ　不老ガシハ

十三ハよ。刺柳根張梓矣云々とある梓ハ。今俗よ木サ
サゲとも。又ハ不老ガシハともいふ木なり。梓弓。集中往
往よ出。古事記。日本紀。三代實錄。延喜式。古今集。其餘のも
のよもあまさ見えさり。

あと　アシノ方

五巻三十丁よ。父母波。枕乃可多尓。妻子等母波。足乃方尓。圍居而。憂吟云々。日本紀繼體天皇巻。勾大兄皇子御歌よ。莽紀佐具。避能伊陀圖鳴。飫斯毘羅枳。倭例以梨魔志。阿都圖喇。都磨怒喇絶底。魔倶囉圖喇。都魔怒喇絶底。伊慕我堤鳴。倭例你魔柯絶毎。倭我堤鳴麼。伊慕你魔柯絶毎云々などあり。

あどもひ　ヒーツ、レダチ

二巻三十三丁よ。挂文云々。御軍士乎。安騰毛比賜。云々とある。ヒーツ、レダチ被成と云意なり。九巻十四丁よ。足利思代。搗行舟薄。高島之足速之水門尓。極尓監鴨。又廿八丁三船子呼。阿騰母比立而。云々。十巻廿九丁よ。璞。年之經往者。阿跡念跡。夜渡吾乎。問人哉誰。廿巻十八丁よ。安騰母比豆許藝由久伎美波云々。などある。安騰母比ハ。みなヒーツ、レダチといふ意なり。日本紀よ。誘字をアトフとよめるも同じ。誂と云も誘都良布なり。都良布ハ。丹都良布。邊都良布などの都良布よ同じ。

あな　ア、ノ　オ、ノ　ヤレ〳〵

三巻廿一丁よ。痛醜。賢良乎為跡。酒不飲。人乎熬見者。猿二鴨似とあるハ。ア、ノ見ニクなど云意なり。神武天皇紀よ。大醜此云鞅奈涕你句とあり。痛字をア。

ナ。と訓るハ。四巻丁ハ。痛多豆多頭思。六巻四十四丁。痛阿
怜。十巻五十七丁。痛情無。まさ四巻三十八丁。痛背乃河。七巻五丁
。痛足河。十二丁。痛足乃山なども見えさり。凡て物
の痛ましき事。ハ。阿那と云てなげゐるゝ故。此字を
志の訓るなり。さてなげくとハ。中昔よりこのゐさハ。多
ぶ悲み愁ることゝのみ云ことなれど。志のゐあらぶ。な
げきハ長息の約ゑさる言。よりて。何事ゝまれ。心ゝしみ
て深く思ゐるゝことあれバ。長き息をつく。これ即なげ
くなり。されバ愁ふることゝも。懽ぶ事ゝも。歎ハすること
となるを。痛字ハ。そのもとらとある一方ゝつきて訓る

ものなれバ。此字ゝのみ就て。言のもとをあやまつこと
なれ。かくて阿那てふ詞と。阿夜てふ詞とを。近世古學
徒ハ。混雑ゝ意得て解る故ゝ。今つぶらゐゝ論をむとす。
抑。阿那ハ。古語拾遺石屋戸段ゝ。阿波礼阿那於茂志呂。阿
那多能志。阿那佐夜懇とありて。注ゝ事之甚切皆称阿那
と見えさる其意なり。さとへバ阿那可畏などいふ時ハ。
其可畏ゝ觸て直ゝ歎息く聲ゝて。今俗ゝアヽノ。又オヽ
ノなどいふゝ。ゐさり。されバ此詞ハ。皆阿那云ことの
み云て。阿那尓可畏。阿那尓悲などゝ云類ハをべてなし。八
巻十六丁ゝ。櫻花能。丹穂日波母安奈尓。この尓ハ。語辞の尓
ゝあらぶ。歎聲ゝ付

とる言なり。又丁穴氣衝之。十四丁ニ。安奈伊伎豆加志。又十丁ニ。安奈多頭多頭志。十六丁ニ。阿奈干稲干稲志などの類猶多し。又古今集戀ニ。阿那戀し。俳諧ニ。阿那言知ず。六帖ニ。爰や何處阿那おもつゐ。又阿那めづらしといとましものを。伊勢物語ニ。鬼とや一口ニ喫てげり。阿那夜といひけもど。この一ニよても。阿那ハ歎の聲なるを思ひ明らむべし。後選集雜ニ。女の阿那寒の風やと申しければ云くるど猶後くまも甚多き詞なり。阿夜てふ詞ハ。阿那といさゝか似さるやうなれど。猶別言ニして歎聲ニあらぞ。阿夜ハ奇しきまでニと云かどの意の詞なり。阿夜ニ可畏ハ。あやしきまで

ニ可畏きの意。阿夜ニ戀しきハ。奇しきまでニ戀しきの意なり。かれ阿夜可畏き。阿夜戀しきなど云る類ハ一つもなくして。皆阿夜ニ云く。と尓の言をそへてのみ云て。これ歎の聲ニあらぢるぞ故なり。かつ〳〵集中の例を云バ。二巻卅三丁ニ。綾尓畏伎。又卅六丁文尓恐美。三巻五十八丁ニ。綾尓恐之。かくさまニ云ることゝなる。五巻六巻十三十八丁ニ。綾哀。十四丁ニ。安夜尓可奈思伎。廿巻四十二丁ニ。阿夜尓可奈之毛。かくさまふいへること。二巻廿六丁ニ。文尓乏寸。十七四十五丁ニ。安夜尓登母志美。かくさまいへるもなるなり。十四三丁ニ。阿夜尓伎保思母。十八廿一丁ニ。安夜尓多敷刀美。又廿四丁安

夜尓久須之美。廿巻四十丁よ阿也尓加母祢毛など猶多し。
これらを考合せて。阿那と阿夜と差別あることハ論を
待ずして思ひ定むべし。古のうを近世の古學徒の文章
を見るよ。阿夜よ可畏。阿夜よ戀しきなどいふべきを。阿
那よ可畏。阿那よ戀しきなど云るゞあるを。いのよそや。
凡て耳遠く異様なる詞を用ひて。強て人の耳を驚かさ
むとかまふるハ。ちのき世よ。ふることまなびをるとも
ゞらの常なゞら。これらハあまをしき。古語をなまゞみ
しさるいひさまるらぞや。よく古語を明らめさらむよ
を。この混亂ハあるまじきことそのし。さて古事記傳阿

夜訶志古泥神の條下よ云。阿夜ハ驚て歎聲なり。皇極天
皇紀よ。咄嗟を夜阿とも。阿夜ともよめり。凡そ阿夜。阿波
礼。波夜。阿くなど。みな本ハ同じく歎聲よて。少しづゝの
異あり。さてその歎きを。阿夜とも。阿波礼とも。波夜とも。
聲の出るなれど。歎聲とも云なり。又阿夜と言て歎くべ
きことを。阿夜尓云くとも云り。阿夜尓かしこし。阿夜尓
戀し。阿夜尓悲しなどの類なり。又奇し危しなども。歎て
阿夜と云るより出さることなり。又阿那も阿夜と通へ
り。阿那さふと。阿那こひしなどの阿那なり。應神天皇紀
よ。呉織穴織とあるを。雄畧天皇紀よハ。漢織呉織とあり。

是阿夜阿那同じき證なり。阿那可畏ハ。阿夜可畏と全同じ。さて阿夜可畏と云ハ。其可畏きよ觸て直よ歎く言なれバ。いよ〳〵切なりと有。こたいと論あることよて。今ついでよ其一ッ二ッを辨へおくべし。まづ日本紀よ。咄嗟とあるをヤアとよめるハ歎聲よて。俗言よやあ待。やれ待など云類と同じき詞よて。古今集よ。やよや待。山霍公鳥言傳む。後拾遺集よ。思ひ出る事も有ずと見えつれど。やといふよこそ驚るきぬれ。などあるも皆同じき詞なるべし。ア。ヤと訓るハいうぞ。これをヤア。とあるのさハ正しく。ア。ヤとあるも。古言のさまを會得知ぬ人の訓るものとおもむるゝなり。さるハ日本紀の訓ハ。いと後の人此手のまじれるゝら。ゐのみぞさきこと多けきバ。打まうせて證とをべきことよハあらず。又阿夜といひて歎くべきことを。阿夜尓云ことも云り。云ことあるハ。ゝと心得ぞさきよしハ。上よ委く云るを見て知べし。凡阿夜と云て歎きさる證例ハなきことなり。又阿那も阿夜と通へり。日本紀よ。穴織を漢織ともありといへれど。そハゐまゝ然通をし云ることよも有つらめど。是ハ歎聲ならねバ。打まうせて是一ッをさのみて。阿夜尓可畏しの阿夜と。阿那戀しの阿那と。一ッ辭とハ定めぞさし。さてかの阿夜訶

志古泥神の御名ハ、阿夜尓訶志古泥神と申すべきを、尓の言はなきハいのゝぞといふゝ、凡て上ゞ代の神、御名ゝ、詞のたらべのあしきハなきことゝて、この神ハ御名も、まづハ阿夜尓云々といふ意の御名なるを、さてハたらべのようらぬ故ゝ、尓の言を省きさるゝことあらめ、あだもとより阿夜云々といふ意ゝハあらじ、さるを猶阿那可畏ハ、阿夜可畏と全同じ、阿夜尓云々といふときも、猶ゆるやうなるを、阿夜云々と云ハ、其可畏ゝ觸て、直ゝ歎く言なれバ、いよ〳〵切なりといはれしもいとゝぞや、抑阿夜ハ、もと文ゝて、阿夜尓可畏きと云ハ、とさまかくさゞ入ちがひてとりきはめごゝく、奇しきまでゝ可畏き意なること、上ゝ云る如し、綾といふも文ある意、奇しといふも、とさまかくさま入違ひて文あるゝまて、取決め難き意の言なり、さてこの阿那を、ヤレ〳〵と聞て宜しき呼もあり、各其前後の語勢ゝつきて斟酌あるべし

あふ　ナントシテ

三巻廿二丁ゝ、價無寶跡言十方、一杯乃濁酒尓、豈益目八も、ナントシテ益ラフヅ、マサリハスマイとの意なり、豈ハもと何と通へる言なり、又四巻廿一丁ゝ、八百日往濱之砂毛、吾戀二、豈不益歟、奥島守とあるハ、つねの格ゝてハ、豈

谷川氏訓栞ニ續日本紀の宣命ニ豈障事波不在止念天奈毛と見えさるハ俗語の如何様といふニ通すといへり

將益ハと云べきを不といへり これも古言ニて豈の譯も同じ ナントシテ益ラウゾ マサリハスマイといふ意なり 仁德天皇紀歌ニ 那菟務始能 譬務始能 虛呂望 赴多弊者氏 箇區涕夜儴利波 阿珥豫區望 阿羅儒 續紀廿五詔ニ 豈障倍岐物二方不在 廿六詔ニ 豈障事波不在止念天奈毛 廿八詔ニ 豈敢朕德伊 天地乃御心令感動 末都流倍伎事波无止奈毛 などある同じ いのでといふことをも いのでまさらむやとも いのでまさらじとやうにも云ゞ如し

あれ アハサテモ ハレヤレ

三巻四十四丁ニ 家有者 妹之手將纏 草枕 客尓臥有 此旅人何怜 とあるハ アハサテモ悲シヤの意なり 四巻五十五丁ニ 早河之 湍尓居鳥之 縁乎奈弥 念而有師 吾兒羽裳 何怜 とあるハ アハサテモイカニシテカアルラウとの意なり 阿波礼ハ歎息の聲ニて 俗ニアハサテモといふニあされり 又ハレヤレと聞ても宜しき所あり いづくニか有をも この二くさの意ニあて、斟酌べし

あはしまる 法目ニカハツタ

十八三十丁ニ 於保伎見能 云く 夏野能 佐由利能波奈能 花咲尓 尓布夫尓 尓恵美天 阿波之多流 今日乎波自米氐 云く

とあるハ、御目ニカヽーツタと云意なり。

あはさぞ　目ニカヽラズ

九、巻十丁ヨ、吾戀（アガコフル）・妹相佐受（イモハアハサズ）・玉浦丹衣片敷（タマノウラニコロモカタシキ）・一鴨将寐（ヒトリカモ子ム）とある

む、妹ハ目ニカヽラズの意なり。

あは　フカウ

二、巻廿六丁ヨ、零雪者（フルユキハ）・安幡（アハ）尓勿落（ニナフリソ）・吉隱之猪養乃岡之塞為（ヨナバリノイカヒノフカノセキナサ）

巻尓（マシニ）とあるハ、降雪ハフカウフルコトナカレの謂ときこえさり。越の國ヨあはといふものありて、其ハ雪のさかりヨ降頃、高山の木ヨふりかヽりさる雪の、梢より落下るまゝ、雪まろむしなどするごとくやう〳〵大ヨ成もて行て、麓ヨ至るかどハ、山のごとくヨなりてまろび下るを、此ヨあされバ大木もさふれをりあしく通りかヽれバ、人馬ヨどもよくる間を待ずして、そこなそるゝことと多しとそ、これも雪の深くふるを安幡（アハ）と云より、員さる称ならむ。古今集ヨ、雲のあはぞつと云るも、深く立意ヨやあらむ。

あぶさはず　ミステズ

十九廿九丁ヨ、食國之（ヨスクニノヨ）・四方之人乎母（モノヒトヲモ）・安夫左波受（アブサハズ）・慈賜者（メグミタヘハ）云

夫字、舊本ヨ天と作るハ誤なる云べし。今ハ本居氏説ヨ従て改む。とあるハ、四方ノ人ヲモミステズ御恵ミナサルレバの意なるべし。

あふさわよ　ナミ〳〵ニ　ナゲヤリニ

八巻七丁よ。棹四香能。芽二貫置有。露之白珠。相佐和仁。誰人可毛。手尓将巻知布。十一三丁よ。開木代。來背若子。欲云余。相狹丸。吾欲云。開木代來背などあるハ。ナミ〳〵ニ。又俗よナゲヤリニと云意よも聞えさり。

あふ　合戦

一巻十二丁よ。高山與。耳梨山與。相之時。立而見爾來之。伊奈美國波良とあるハ。合戦シタトキの意なり。合戦をとを阿布と云ること。日本紀神功皇后巻よも見えさり。毛詩よ。肆伐大商會朝清明とありて。注よ會朝。會戦之旦也といへり。此類からぶみよなホ多し。かくれバから國よても。會戦ふことを。會とのみも云ア〳〵なり

あふち　センダン

五巻六丁よ。伊毛何美斯。阿布知乃波那波。知利奴倍斯。和何那久那美多。伊摩陀飛那久尓。十巻廿二丁よ。吾妹子尓。相市乃花波落不過。今咲有如。有與奴香聞などありて。今俗よセンダンといふ木のことなり。

あべて　あべく　オメイテ　オメク

三巻四十丁よ。率兒等。安倍而榜出牟。尓波母之頭氣師。九巻八丁よ。湯羅乃前。塩乾尓祈良志。白神之。磯浦箕乎。敢而榜動

などあるハ、オメイテコグよしなり。三巻廿四丁よ。海路尓出而、安倍寸管、我榜行者とあるも同言ゑて、オメイテコグといふ意なり。さて阿倍久ハ、倍を米ゑ通ひて喘くといふなるべし。その喘くハ、即俗ゑオメクと云ゑ同じことなるべし。されバ安倍氐の倍を濁りて唱ふべし。敢字を書るハ、清音の字を濁音ゑ借用さるゑて、集中ゑ例多し。されぞこきも濁りて唱べし。

あへぞ　コタヘズ　エ持コタヘズ　シアフセズ

十五丁ゑ。安伎左礼婆、於久都由之毛尓、安倍受之氐、京師乃山波、伊呂豆伎奴良牟とあるハ、コタヘズシテ、又エ持コタヘズシテの意なり。十九三十丁ゑ。可久古非婆、意伊豆久安我未、氣太志安倍牟可毎とあるハ、コタヘラレヤウカの意なり。又シアフセズときゝて宜しき所もあり。

あへぬく　アハセツナグ

十九丁ゑ。霍公鳥、喧始音乎、橘、珠尓安倍貫、可頭良伎氐、遊波之母、云く、八巻廿二丁ゑ。霍公鳥、痛莫鳴、汝音乎、五月玉尓、相貫左右ニなどあり。みな、アハセツナグといふことなり。十巻十八丁ゑ。霍公鳥、汝始音者、於吾欲得、五月之珠尓、交而將貫とあるも意同じ。

あまねく　ノコリナウ　十分

三巻 丁 廿一 よ。世間之遊道尓。洽者。醉哭為尓。可有良師とあるハ。世間ニアラユル種くノ遊ノスギハ。イヅレモオモシロウハアレド。ソノ遊ハ。或ハ片一方ハタノシウテ。片一方ハ十分ナラヌコトノアルナラヒナルニ。何事モノコリナウタノシイハ。酒ヲノンデ醉泣スルニコシタコトハアリソモナイ。と云なるべし。又十分ニタノシイハともきくべし。八巻 丁 廿八 よ。鐘礼能雨。無間零者。三笠山木末歴。色附尓家里とあるも。梢トアル梢ガ。一ツモノコリナウ色ヅイタワイと云意なり。又十分ニ色ヅイタワイともきくべし。

あまさ コトノ外 オビタ、シウ タクサン ヨケイ カズくも

八巻 丁 廿三 よ。多夫手二毛。投越都倍伎。天漢。敝太而禮婆可母。安麻多須辨奈吉とあるハ。甚しく殊ヨすぐれて為む方のなき意よて。俗ヨコトノ外といふよあされり。七巻十六丁 よ。鳥自物。海二浮居而。奥津浪。驂乎聞者。數悲哭。十二丁 廿八 よ。草枕。客去君乎。人目多。袖不振為而。安万田悔毛などある。みな同意なり。○十七 四十五丁 よ。多加波之母。安麻多安礼等母。矢形尾乃。安我大黒尓。云くとあるハ。オビタ、シウアレドといふ意なり。又タクサンとも。ヨケイともカズくとも譯すべし。

あまつゝみ　アメギラヒ　アメニフリコメラレ

四巻十八丁よ。雨障常為公者。久堅乃昨夜雨尓。將懲鴨とあるハ。ヂバンアメギラヒサツシヤル君ナレバ。アンノトホリヨンベノ雨ニ懲テ。今夜ハゴザラヌデアラウの謂なり。同巻同丁よ。久堅乃雨毛落糠。雨乍見。於君副而。此日令晩とあるハ。アメニフリコメラレテ。ヨウモドラ子バ。ソレヲイヒタテニシテ。君ニヒツソウテ居ウの意なり。八巻四十一丁よ。雨障出而不行者とあるも。雨ニフリコメラレテの意なり。十一三十一丁よ。雨乍見留之君我とあるも同じ。十八三十八丁よ。夜夫奈美能佐刀尓夜度可里。波流佐米尓。許母理都追牟等。伊母尓都宜都夜とあるハ。障を活用して云さるなり

あもり　アマクダリ

二巻三十四丁よ。狭劒和射見我原乃行宮尓。安母理座而云〻。とある安母理ハ。天降の縮れる言よて。アマクダリと云よ同じ。さてこの詞ハ。神等をさゞめ。高天原より此國土よ降着をいふことなるを。それよりなをらへて。天皇の宮城を出て。何國にまれいさりたしますを云ことかの皇居を天上よ准へて。久堅之皇都といへるよ同じこゝろぞえなり。三巻十六丁よ。天降付天之芳山とあるハ。香山も。もと天上より降着さる山なれバ。正しく高天原より

天降付さるよしなり、十三三丁ヨ.葦原乃.水穂國丹.手向為跡.天降座兼といひ.十九三十九丁ヨ.安母理麻之などあるも.正しく天上より天降りましるを云るなり.

あやヨ メツタムシヨウニ

阿夜ヨ可畏.阿夜ヨ戀しきなど云ハ.あやしきまでヨ可畏.あやしきまでふ戀しきと云意ヨて.阿夜尓ハ.俗ヨメツタムシヨウニといふヨあされり.なお上あふ條ふ委云さるを考合べし.

あやしく カハツタコト フシギナコト

八巻三十六丁ヨ.久堅之.雨尓波不著乎.恠毛.吾袖者.干時無香.

十二二十六丁ヨ.住吉之.敷津之浦乃.名告藻之.名者告而之乎.不相毛恠などあるハ.俗ヨカハツタコト.或ハフシギナコトといふ意なり.伊勢物語ヨ.あやしうさやうなてあるべき女ヨハあらず見えけれバとあるも.フシギナコトサウアラウ女デハアルマイトオモハレケレバと云意なり.古今集序ヨ.歌ヨあやしくさへなりけりとあるハ.奇妙の字訓のまゝヨ云ることなるべし.それもフシギニカハツタ上手と云意なり.

あゆる ウレル

十八廿八丁 橘歌ヨ.安由流實者.多麻尓奴伎都追.手尓麻吉

豆見礼騰毛安加受云〻とある安由流ハ。うら人相如賦
よ。盧橘夏孰とある孰よあゝれりと見ゆ。孰字ハ。俗よ熟と作よし見え
り。熟を俗よウレルと云り。熟ゝる橘實ハ。玉よ貫つゝ手
よ纏て見きども飽ずとの謂なるべし。

あゆのうぜ　ヒガシ風

十七　四十八丁　よ。東風伊多久布久良之。奈吳乃安麻能都利須
流乎夫祢。許藝可久流見由とありて。家持卿の自注よ。越
俗語東風謂之安由乃可是也。と見えゝり。

あらぞは　アラウヨリハ

二卷　八丁　よ。如此許戀乍不有者。高山之磐根四卷手。死奈麻
死物乎とあるハ。戀シウテサアラウヨリハの意なり。同
卷十五丁　よ。遺居而。戀管不有者。追及武。道之阿田尓。標結吾
勢。又十六丁　吾妹兒尓。戀乍不有者。秋芽之。咲而散去流。花尓
有猿尾。四卷廿三丁　よ。後居而。戀乍不有者。木國乃。妹背乃山
尓。有益物乎。又四十九丁　如是許。戀乍不有者。石木二毛。成益物
乎。物不思四手。又五十丁　外居而。戀乍不有者。君之家乃。池尓
住云。鴨二有益雄。八卷四十六丁　よ。秋芽子之。上尓置有白露乃。
消可毛。思奈萬思。戀管不有者。十一廿六丁　よ。劔刀。諸刃之於
荷。去觸而。所殺鴨。將死。戀乍不有者。又廿二丁　如是許。戀乍不
有者。朝尓日尓。妹之將履。地尓有申尾。又廿六丁　白浪之。來縁

島乃荒磯尓毛有申物尾戀乍不有者又 サ九 丁 吾妹子尓戀乍不有者苅薦之思亂而可死鬼乎 十二 八丁 ょ何時左右二将生命曽凡者戀乍不有者死上有又 四十 丁 後居而戀乍不有者田籠之浦乃海部有申尾珠藻苅く これらみれ同じ

三巻 サ一 丁 ょ中く二人跡不有者酒壺二成而師鴨酒二深嘗とあるハ人トナッテアラウヨリハの意なり十二 サ七 丁 ょ中く二人跡不有者桑子尓毛成益物乎玉之緒許これも同じ四巻 五十一 丁 ょ吾念如此而不有者玉二毛我真毛妹之手二所纏牟とあるハカヤウニシテアラウヨリハの意なり

あらのゞめマヘカドニ シヨテカラ

三巻 五十六 丁 ょ出行道知末世波豫妹乎将留塞毛置末思乎とあるハマヘカドニの意なり四巻 サ五 丁 ょ筑紫船未毛不來者豫荒振公乎見之悲左とあるも荒ブル君ヲ見ント思ウテマヘカドニ悲シイとの謂なり又シヨテカラとも譯をべし又同巻 四十七 丁 ょ豫人事繁云く六巻 十九 丁 ょ豫兼而知者云く又 三十四 丁 豫公來座武跡などあるも皆同じ

あらぶ ウトンズ トホノク アイソノツキル

二巻 サハ 丁 ょ島宮上池有放鳥荒備勿行君不座十方とあるハウトンジテ他ヘイクナの意なり又トホノイテ他

ヘイクナとも謂べし。十一サハ丁よ。妹之髪。上竹葉野之放駒。蕩去家良思。不合思者。又四十六丁拷領巾乃。白濱浪乃。不肯縁荒振妹尓。戀乍曾居流。四巻五十丁よ筑紫舟。未毛不來者。豫荒振公乎。見之悲左などあるみれ同じ。又アイソノツキルとも譯もべし。竹取物語よ。あゐ〜ひよおどろ〜しく廿人のがりて侍れバ。あれてまうでこずなりぬとあるあれても同じ。

ありぎかー　アリタイ

六巻四十五丁よ。三香原。久邇乃京師者。云く。在果石。住吉里乃。荒樂苦惜喪。とある在果石ハ。在之欲よて。アリタイと云よあられり。

あろぢ　テイシユ

廿巻五十九丁よ。波之伎余之。家布能安呂自波。伊蘓麻都能。都禰爾伊麻佐禰。伊麻母美流其等とあるハ。今日ノテイシユハといふ意なり。

あをな　カブラナ

十六十七丁よ。食薦敷。蔓菁煮將來。裸尓。行騰懸而。息此公とあり。俗よ云カブラナのことなり。

○い部

いのぢかり　○いくぢく　○いくだ　○いくら　ドレホド　タント

四巻廿七丁ヨ幾許思異目鴨敷細之枕片去夢所見來之五巻廿五丁ヨ由久布祢遠布利等騰尾加祢伊加婆加利故保斯苦阿利家武麻都良佐欲比賣などあるハドレホドといふ意なり八巻五十八丁ヨ吾背兒與二有見麻世波幾許香此零雪之懽有麻思九巻廿五丁ヨ幾時毛不生物乎何為跡歟身乎田名知而云々などある幾婆久も同意なり又二巻十九丁ヨ左宿夜者幾毛不有云々五巻九丁ヨ佐祢斯欲能伊久陀母阿羅祢婆云々十巻廿七丁ヨ左尼始而何太毛不在云々などある伊久陀も同意なり十七丁ニヨ年月毛伊久良母阿良奴尓云々とある伊久良も同ド又此伊久陀伊久良をタントとも譯そべし

いのさまドノヤウ

一巻十七丁ヨ何方御念計米可天離夷者雖有石走淡海國乃樂浪乃大津宮尓天下所知食兼雖下不字を脱せり二巻廿七丁ヨ何方尓念食可由縁母無真弓乃岡尓宮柱太布座云々などある何方ハドノヤウといふ意なり

いのるぞマメマハシ

十三六丁ヨ近江之海泊八十有八十島之島之埼邪伎安利立有花橘乎云々仲枝尓伊加流我懸下枝尓此米乎懸云云伊加流我等此米登とある伊加流我ハ俗ヨ云マメマ

ハシのことなり。

いきのを　イノチニカケテ

四巻廿八丁よ。今者吾羽。和備曾四二結類。氣乃緒尓。念師君乎。縦久思者。七巻廿五丁よ。氣緒尓。念有吾乎。山治左能花尓香君我。移奴良武。十一三丁よ。息緒。吾雖念。人目多社。吹風有數く。應相物。又四十二丁生緒尓。念者苦。玉緒乃。絶天亂名。知者知友。十三十丁よ。人不知。本名曾戀流。氣之緒丹四天などあるハ。命ニカケテと云意なり。さて此を。氣緒とも。息緒とも。生緒ともかけるゞ中よ。生緒とかける本義なるべし

いくり　海ノ底ノ石

二巻十九丁よ。角鄣經。石見之海乃。言佐敝久。辛乃埼有。伊久里尓曾。深海松生流。云く。六巻十六丁よ。海底。奥津伊久利二。鰒珠。左盤尓潜出などある伊久利ハ。海ノ底ノ石を云。古事記仁德天皇條。歌よ。由良能斗能。斗那加能。伊久理尓。布禮多都。云くとあるも同じ。此歌。日本紀よ。應神天皇巻よ出て。その釋よ。異句離。句離。謂石異。助語と見えさり。助語といへることといふゞ。

いくばく○いくだ○いくら　ドレホド　タント

説上よ出。

いけらずは　イキヨウヨリハ

十巻五十五丁よ長夜乎於君戀乍不生者開而落西花有益乎

とあるハ生ヨウヨリハといふ意なり

いさ　ドウヂヤヤラ存セズ

十一丁ニよ狗上之鳥籠山尓有不知也河不知二五寸許瀬余名告奈とあるハドウヂヤヤラ存セズトオツシヤレとの意なり神功皇后紀よ有無之不知古今集よ貫之人ハいさ心も知ずふるさとハ花ぞむかしの香よりかひけるなど見えたり

いさよふ　タメラフ　ドチモツカズ

三巻十八丁よ物乃部能八十氏河乃阿白木尓不知代經浪乃去邊白不母とあるハ流レテイクカト思ヘバサラ〳〵トナガレモセズサラバ淀ムカト見ルニヨドムデモナシドチモツカズニタメラフとの謂なり伊佐余布月などいふも出むとする月のそく〳〵と出もやらずふめらふ謂の意なり

いさゝゐ　カリソメ　カルぐ〳〵シウ

十九丁サ四よ伊佐左可尓念而來之乎多枯乃浦尓開流藤見而一夜可經とあるハカリソメニといふ意なり又カルぐシウとも譯すべし

いさゝめ　ツイ

七巻 卅四丁 ヨ.真木柱.作蘓麻人.伊左佐目丹.借廬之為跡.造
計米八方.十一 十五丁 ヨ.垣幡.丹頰経君叫.率尓.思出乍.嘆鶴
鴨などあるハ.俗ヨツイといふごとし.

いざ ドレヤ サア

一巻 十一丁 ヨ.君之齒母.吾代毛所知武磐代乃.岡之草根乎.
去來結手名とあるハ.ドレヤ結バウゾといふ意なり.又
サア結バウゾとも譯すべし.此詞巻こゝ見ゆ.いづくゝ
あるも此二ゝやうの譯言ゝとさりて聞ゆることなり.

いそみ 磯ノメグラ イソバタ

十七 十九丁 ヨ.馬並底.伊射宇知由可奈.思夫多尓能.伎欲吉
伊蘇未尓.與須流奈弥見尓.又 廿二丁 白浪乃.余須流伊蘇未
乎.搒船乃.可治登流間奈久.於母保要之伎美などあるハ
よりて.をべて磯回とあるをバ.イソミと訓べし.舊本ヨ.
未字を末ヨ誤れるふよりて.イソヽといふをひゞことと
なり.さて伊蘇未ハ.磯ノメグラ.或ハイソバタなどいを
むゞ如し.

いそみそる イソヽハリスル

三巻 卅五丁 ヨ.大船二.真梶繁貫.大王之.御命恐.磯廻為鴨と
あるハ.イソヽハリヲスル哉と云意なり.磯をめぐりて
漕行を云.常ヨ磯の廻を伊蘇未と云とを.いさゝの異な

り。こゝハ自磯めぐりをそることなれバなり。浦まをり
をそるを宇良末須流。島まをりをそるを之麻末須流。と
いふよ同例なり。

いそぐひ　ソバヘル

十三六丁よ。已之母乎。取久乎不知。已之父乎。取久乎思良尓。
伊蘇婆比座與。伊加流我等。此米登とある。伊ハそへ言よ
て。ソバヘルといふ意なりと云説あり。さもあらむ。枕冊
子よ。そぐへさる小舍人童とあるも。俗よ云ソバヘルこ
となるべし。

いさゝ○いさも　キツウ　ヒドウ

八巻十四丁よ。神奈備乃。伊波瀬乃杜之。喚子鳥。痛莫鳴。吾戀
益とあるハ。キツウ鳴ナの謂なり。又ヒドウとも譯をべ
し。十五卅九丁よ。保登等藝須。安比太之麻思於家。奈我奈家
婆。安我毛布許已呂。伊多母須敝奈之。とある伊多母も同
じ。

いさゝづら　ムヤク　ムダ　センガナイ

一巻廿三丁よ。媛女乃。袖吹反。明日香風。京都乎遠見。無用尓
布久。十七廿七丁よ。乎登賣良我。春菜都麻須等。久礼奈為能。
赤裳乃須蘇能。波流佐米尓。尓保比比豆知底。加欲敷浪牟。
時盛乎。伊多豆良尓。須具之夜里都礼云く。などある伊多

豆良ハ俗ヨムヤクといふことなり又ムダ或ハセンガナイときゝて宜しき所もあり

いちちろく　目ニタツテ

八巻五十五丁ヨ天霧之雪毛零奴可灼然此五柴尓零巻乎將見とあるハ目ニタツテフルといふ意なり伊知白久といふ詞集中ヨ多し

いづくゝ　いづち　ドコ　ドツチヘ

五巻九丁ヨ久礼奈為能意母提乃宇倍尓伊豆久由可斯和何伎多利斯云くとある伊豆久ハドコといふことなり

同巻廿八丁ヨ多良知斯能波ゝ何目美受提意保ゝ斯久伊豆知武伎提可阿我和可留良武とある伊豆知も同じ意なり又ドツチへとも聞べし

いづら　ドレ

十五廿四丁ヨ伊波多野尓夜杼里須流伎美伊敝妣等乃伊豆良等和礼乎等波婆伊可尓伊波牟とあるハドレといふ意なり

いつゞり　ヒツソウテ　クサリ

九巻廿五丁ヨ豊國乃加波流波吾宅紐兒尓伊都我里座者革流波吾宅とあるハヒツソウテヲレバといふ意ヨきこえさり十八廿六丁ヨ佐夫流其兒尓比毛能緒能移都我

利安比豆云くとあるも同じ。又クサリアウテとも譯すべし。

いで　イヤドウゾ　イヤモウ

二巻十八丁よ。丹生乃河瀬者不渡而由久遊久登戀痛吾弟。乞通來根とあるハ。イヤドウゾと云意なり。七巻六丁よ。吾勢子乎。乞許世山登云く。十二廿九丁よ。乞吾駒早去欲云く。十四十七丁よ。伊低兒多婆里尓日本紀允恭天皇巻よ。謂皇后曰云く壓乞戸母云く。注よ。壓乞此云異提とありこれらみな同じ意なり。四巻四十一丁よ。汝乎與吾乎人曾離奈流。乞吾君人之中言聞越名湯目とあるハ。イヤモウ人ノ讒言ヲユメ〳〵聞入ルナといふ意なり。古今集よ。いで吾を人なとゞめそ大船のゆくさのさゆさよ物思ふ頃そ。いで人ハ言のみそよき月草のうつし心ハ色ことよしてなどあるみな同じ。

いでまそ　御出被成　御出被遊

六巻廿六丁よ。王命恐見刺並之國尓出座耶吾背乃公矣云云とある。出座ハ行給ふと云意なり。天智天皇紀童謠よ。于知波志能都梅能阿素弭尓伊提麻栖古云く。伊提麻志能俱伊播阿羅珥茹云く。これも同じ。金葉集よ。玉津島岸打浪の立歸ひ。せないでましぬ名殘さびしも。これも行

給ふと云意ゝいへり。八巻丁ゝ。闇夜者。宇倍毛不來座。梅花開月夜尓。伊而座左自常屋とあるハ。來給をゝとゝやゝといふ意なり。さて今俗ゝ行ことゝゝも來ことゝゝも。御出被成と云ハ。古言ゝ出座とあるを。俗ゝ御出被遊など云ゝ全あされり。

イトゞシウ　イヤガウヘニ　ウハヌリヲカケテ

いとのきて

五巻丁ゝ。伊等乃伎提。短物乎。端伎流等。云之如。云くゝまゝ

丁七　伊等能伎提。痛伎瘡尓波。鹹塩遠。灌知布其等久。云くゝ

十二丁七ゝ。五十殿寸太。薄寸眉根乎。徒令搔管。不相人可母。

十四丁二ゝ。伊等能伎提。可奈思家世呂尓。云くゝなどある

て後世ゝイトゞシウと云ゝあされり。又俗ゝイヤガウヘニといふゝも當れり。又ウハヌリヲカケテとも譯すべし。

サウデアラウカ。サウデアルマイカ　ソレカアラヌカ

いなをうも

十一丁十七ゝ。相見者千歳八去流。不乎鴨我哉然念待公難尓とあるハ。逢見テ後千年ノ久シイ間ヲ過シタカ。サウデアラウカ。サウデアルマイカ。ツクゞ思ウテ見ルニ。ソレホド久シイ間ヲ過シニハアラ子ドモ。君ガ來ヤウガオソイ。ト待遠ニオモウ我心ヨリ。サウアラウカと謂なり。さて不鴨乎鴨と云べきを。一ッの鴨の言ゝて。二詞を括

とさるなり。不鴨ハサウデアルマイカと云よあさり。乎鴨ハサウデアラウカと云よあされり。十四三丁よ。筑波祢尓由伎可母布良留。伊奈乎可母。加奈思吉兒呂我尓奴保佐流可母。とあるも全同じ。又ソレカアラヌカとも譯すべし。

いな　イヤ

二巻十一丁よ。水薦苅信濃乃真弓。吾引者。宇真人佐備而。不言常将言可聞。三巻十二丁よ。不聽跡雖云。強流志斐能我。強語。比者不聞而。朕戀尓家里。不聽雖謂。話礼〻〻常。詔許曽。志斐伊波奏。強語登言などあるハ。俗よイヤといふよあ

されり。

いなもをも　イヤモヲハモ

十六九丁よ。否藻諾藻。隨欲。可赦。貌所見哉。我藻將依。又十何為迹。違將居。否藻諾藻。友之波〻。我裳將依などあるハ。俗よイヤモヲハモといふよ同じ。

いなだき　イタヾキ

三巻四十四丁よ。伊奈太吉爾。伎須賣流玉者。無二。此方彼方毛。君之隨意。とある。伊奈太吉ハ。後よ云イタヾキなり。此歌よていハ冠頂を云。字鏡。和名抄以降ハ。なべて伊多太岐と云れど。古くハ伊奈太岐と云り。

いよしへひと　フルナジミ

十一丁　ヨ。眉根搔下言借見。思有尓。去家人乎。相見鶴鴨。

とあるハ。フルナジミのことなり。

いのちヨむるふ　命ヲ相手ニスル

四巻　四十三丁　ヨ。直相而見而者耳社。靈尅命向。吾戀止眼とあるハ。命ヲ相手ニシテフカウ戀シウ思フとの意なり。向ハ。敵對の意ヨて。身命も失バ失ぞりヨ。甚しく戀る謂なり。八巻　丁　ヨ。玉切命向戀從者。公之三舶乃。梶柄母我。十二丁　十五　ヨ。真十鏡直目尓君乎。見者許增命對。吾戀止目などあるみれ同じ。

いひやる　イヒハナス

四巻　丁　ヨ。手弱女吾身之有者。道守之。將問答乎。言將遣。為便乎不知跡。立而爪衝とあるハ。イヒハナサウと云意なり。言遣ハイヒハナスと云ことなり。見てなを見遣といふヨ同じ。

いふかる　分明ナラヌ

九巻　丁　ヨ。言借石。國之真保良乎。委曲尓。示賜者。云ことあるハ。分明ナラザッタの意なり。言借ハ分明ナラヌといふことなり○古今集古注ヨ。大雀の帝の難波ヨて皇子と聞えける時。東宮と互ヨ讓りて。位ヨ即賜なて三年

よるをよゝれば王仁といふ人のいふり思ひて作て獻をける歌なりとあるハ咲止ニ思ウテ或ハキノドクニ思ウテと云意なり此れも分明ならぬをいふより轉をゝるなり

いふり　ドウカトキヅカハシイ　フシンナ

四巻廿九丁よ不相見而氣長久成奴比日者奈何好去哉言借吾妹とあるハ奈何好去哉ハ平安哉如何と云ゞ如し息災ナリヤイカヾアラウドウカトキヅカハシイ吾妹ヨの意なり十巻四十丁よ秋芽子之散去見麝三妻戀為良思棹牡鹿鳴毋とあるハハギノ花ガチリウセタヲ見テ秋ハ過行カドウカトキヅカハシサニの意なり十二九丁よ相見欲為者從君毛吾曽益而伊布可思美為也とあるも同意なり又十一廿三丁よ眉根搔下言借見思有尓去家人乎相見鶴鴨とあるハナイシヤウデフシンニオモウタニと云意よきこゆ

いふせく　ウツトシウムせ〳〵スル

四巻五十六丁よ久堅之雨之落日乎直獨山邊尓居者鬱有來とあるハウツトシウテアルワイ又ハムせ〳〵スルワイの意なり八巻廿五丁よ隱耳居者鬱悒奈具左武登出立聞者來鳴日晩とあるハウツトシサニの意なり又ハムせ

ムセスルユヱニとも譯すべし。九巻廿五丁ヨ。牢而居者。見而師香跡。悒憤時之。云くとあるハ。ムせくスルと云意なり。八巻四十丁ヨ。雨隱情欝悒。出見者。春日山者。色付二家利。十一廿四丁ヨ。水鳥乃。鴨之住池之。下樋無。欝悒君。今日見鶴鴨。十二十丁ヨ。得田價異。心欝悒事計。吉為吾兄子。相有時谷。又十六丁垂乳根之母我養蠶乃。眉隱馬聲蜂音石花蜘蛛荒鹿。異母二不相而。などあるみな意同じ。

いへごと　内ノ左右　ヤドモトノ左右

一巻廿七丁ヨ。旅尓之而。物戀之伎乃。鳴事毛。不所聞有世者。孤悲而死萬思。乃鳴ハ。尓家の誤なるべし。廿巻廿丁ヨ。伊倍加是波。比尓比尓布氣菁。和伎母古賀。伊倍其登母遅豆。久流比等母奈之などあり。事とかけるハ借字。家言よて。内ノ左右。或ハヤドモトノ左右といふことなり。

いほる　コヤヅクリスル　コヤズミスル

二巻四十二丁ヨ。名細之。狹岑之島乃。荒磯回尓。廬作而見者。云云とあるハ。コヤヅクリシテといふ意なり。○十巻五十一丁ヨ。秋田刈。借廬作。五百入為而。有藍君叫。將見依毛欲得とあるハ。廬為賜ひてといふ意よて。俗よコヤズミサツシヤツテといふよ同じ。伊保留といふハ。コヤズミスルといふことなれバなり。

いま　追付　又　コンド　アラタニ　トウジ　コノ

十二十七丁より、湊入之葦別小船障多今來吾乎不通跡念莫十三十七丁より、門座郎子内尓雖至痛之戀者今還金などある今ハ俗より追付といふより正しくあされり古今集八巻離別より立ぷのれいなたの山の嶺よおふる松としきのむ今のへり来む土左日記より今日破子持せて来る人名などそや今思ひ出む源氏物語寄生よりよろづハ今さぶらひてなむなどあるもみれ同じ○十七十九丁より伊毛我伊弊尓伊久理能母里乃藤花伊麻許牟春毛都祢加久之見年とあるハ又といふよも俗よコンドと云意よも通

ひて聞えさり十巻廿九丁より月累吾思妹會夜者今之七夕續巨勢奴鴨とあるも同じ古今集四巻秋上より今日より八今来む年の昨日をそいつしかとのみ待ぷさるべき土左日記より一歌よりことの飽ねバ今一ッなどあるも同意なり○四巻五十六丁より今所知久迹乃京尓妹二不相久成行而早見奈六巻四十丁より今造久迹乃王都者山河之清見者宇倍所知良之八巻五十三丁より今造久迹能京尓秋夜乃長尓獨宿之苦左七巻廿九丁より今造班衣面就吾尓所念未服友十二三丁より新治今作路清聞鴨妹於事矣十四十一丁より信濃道者伊麻能波里美知可里婆祢尓安思布麻之牟奈久都

波氣和我世。廿巻十九丁ヨ。今替。尓比佐伎母利我布奈豆須流。宇奈波良乃宇倍尓。奈美那佐伎曽祢。七巻八丁ヨ。波祢縫。今為妹乎。浦若三。去來率去河之音之清左。十一廿五丁ヨ。見ゆ。これらの今ハアラタニと云意なり。新來。新參。また新熊野。新日吉。などの新を思合もべし。土左日記ヨ。邊ヨ松も有き。五年六年の内ヨ千年やもぎヨけむ。片枝ハなくなりヨけり。今生さるぞ雜れる。とあるも同じ。又トウジと譯してよろしき所もあり。續紀卅二詔ヨ。今皇太子止定賜部流他戸王云くるどある。其ヨあされり。五巻卅一丁ヨ。今世能人母許等期等。目前尓見在知在。云く。この今ハコノと云ヨ同じ。集中ヨ。今代。今生。今夜などかけるも。今と此と通ふの故なるべし。佛足石碑歌ヨ。久須里師波。都祢乃母阿礼等。麻良比止乃。伊麻乃久須理師。多布止可理家利。米太志可利鶏利。とある。伊麻も同じ。

いまは　モウハ

十巻十丁ヨ。熒田津尓。船乗世武登。月待者。潮毛可奈比沼。今者許藝豆茱。とあるハ。モウハコギデヨウとの意なり。四巻二十二丁ヨ。常不止通之君我。使不來。今者不相跡。絶多比奴良之。とあるハ。モウハアフマイとの意なり。今者と云詞。いづくヨ有ても同意なり。古今集戀三ヨ。明ぬとていま

その心つくのらよ。などいひちらぬ思ひそふらむとあるハ。モウハ別レルジセッヂーヤト思フ心ガツクカラシテ。と云意なり。

いまを　御出被成　御歸被成

三巻廿八丁　ヨ。思家登情進莫風候。好為而伊麻世荒其路と

あるハ。御無難ニ御出被成ヨと云意なり。十五四丁　ヨ。大船乎。安流美尓伊太之。伊麻須君。都追牟許等奈久波也加敝

里麻勢とあるハ。荒海ニ舟ヲ乘出シテ御出被成君といふ意なり。四巻廿二丁　ヨ。近有者。雖不見在乎。弥遠君之伊座者。有不勝目。又四十四丁　夕闇者。路多豆多頭四。待月而行吾背

子。其間尓母将見。十五五丁　ヨ。多久夫須麻。新羅邊伊麻須。云云。廿巻四十四丁　ヨ。安之我良乃。夜敝也麻故要豆。伊麻志奈婆。云くなどあるみな同じ。十九卅三丁　ヨ。打羽振。雞者鳴等母如此許。零敷雪尓。君伊麻左米也母とあるハ。御歸被成ハスマイとの意なり。

いませて　招待シテ

十二十八丁　ヨ。十五日。出之月乃。高く尓。君乎座而。何物乎加将念とあるハ。俗ヨ招待シテといふ意なり。七巻廿六丁　ヨ。漢女乎座而。縫衣叙とある座而も同じ。

いまし　ソナタ

六巻 廿五丁 よ。食國。遠乃御朝庭尓。汝等之。如是退去者。云く。

十四丁 五 よ。駿河能宇美。於思敝尓於布流。波麻都豆良。伊麻思乎多能美。波播尓多我比奴。などある汝ハ。ソナタといふことなり。

いめ○いめひと　殺生ノ時ノ射手

六巻 十四丁 よ。見芳野乃。飽津之小野笑。野上者。跡見居置而。御山者。射目立渡。朝獵尓。十六履起。夕狩尓。十里躡立。云く。

九巻 十一丁 よ。巨椋乃。入江響奈理。射目人乃。伏見何田井尓。鴈渡良之などあり。狩獵のとき。鳥獸を弓射人を。射部とも射部人ともいへり。

いらなく　コヽロヨハウ　シーツカリトセズ

十七丁 廿六 よ。可奈之家口。許己尓思出。伊良奈氣久。曾許尓念出。奈氣久。久蘇良。夜須家久奈久尓。於母布蘇良。久流之伎母能乎。云く。とある。伊良奈氣久ハ。苛無くして。苛だついきゐひなく。病よ羸れて。コヽロヨハウナレルと謂よて。俗よシーツカリトセズと云意なるべし。大和物語よ。我さまのいといらなくなりよけるを思ひたるよ。いとてしさふくて。芦も打捨て走りよけりとあるも。年よりやつれて。苛ぐつ勢なき形よなりさるを云なるべし。

○う部

う　ヱル

殖ハ、俗ヨウヱル、居ハ、俗ヨスヱルといふヨ同じ。

うのねらふ　ニヨコ〳〵子ラフ、ウソ〳〵子ラフ　コツソリト子ラフ

八巻四十二丁ヨ、此岳尓小牡鹿踏起宇加垈良比可聞くく為良久君故尓許曽十巻六十三丁ヨ、窺良布跡見山雪之灼然云云などあるハ、俗ヨニヨコ〳〵子ラフ、或ハウソ〳〵子ラフ、或ハコツソリト子ラフといふ意なり。

うく　氣ノ落ツカヌ

十一十三丁ヨ、解衣戀亂乍浮沙生吾戀度鴨、沙生ハ、草浮などあるべし、此歌六帖ヨ、ときゞぬの思ひ乱てうき草のうきてもまれハこひまさるうもとあるこれ古、字の正しかりし本ヨよれるなるべし、古今集ヨ、瀧つ瀬ヨ根ざし留めぬうき草の、うきさる戀もまれハそるうゐ、とあるハ氣ノ落ツカヌと云意なり。

うく　氣ニクハヌ

五巻卅丁ヨ、世間乎宇之等夜佐之等於母倍杼母飛立可祢都鳥尓之安良祢婆又卅七丁世間能宇計久都良計久云く、八巻卅九丁ヨ、霍公鳥鳴峯乃上能宇乃花之厭事有哉君之不來座など、猶多うり、俗ヨ氣ニクハヌと云意なり。

うけひ　ゼヒトモニト神様ニ御タノミ申ス

四巻五十六丁ヨ、都路乎遠哉妹之比來者得飼飯而雖宿夢尓

不所見來(ミエコヌ)。十一(ハヅ)ヨ。水上(ミヅノウヘニ)。如數書(カズカクゴトキワガイノチヲイモニアタフ)。吾命。妹相受日(ウケヒツル)鶴鴨(カモ)。などあるを按ヨ。祈字を。古書ヨ多くウケフと訓さるよつきて。さぶ祈(イノ)るのみのことゝ意得る時ハ。本義を盡さず。此

てゼヒトモニト神様ニ御タノミ申スといふ意の言と聞えさり。されバ右の四巻なるハ。妹ガ来ルト夢ニ御見せ被成(レ)ヨ。ゼヒトモニト神様ニ御タノミ申シタカラハ。夢ニ見エヌト云コトハナイハズヂヤニ。夢ニ見エヌハ。妹ガ所ヨリ。久迩ノ京路ノ間ガ。遠ウヘダツタ故デアラウカとの謂なり。十一なるハ。テウド水ノ上ニ物ノ數ヲ書付ルヤウナモノデ。チツトモタノミニナラヌコチノ

命ヂヤニ。妹ニアハウト思フテ。ゼヒトモニト神様ニ御タノミ申シタコト哉との謂なり。其餘なるもこれヨ准ふべし。古事記上巻大山津見神の詞ヨ。使(ジガハシテ)石長比賣(ヲバ)者。天神御子之命(ノミイチ)。雖(ドモ)雪零風吹(アメフリカゼフケトヨミテル)恒如石而(イハノゴトクトキハニカキ)常堅石不動座(トシテセ)。亦使(シテ)木花之佐久夜比賣(ヲバ)者。如(ニ)木花之榮(ルエ)〻坐(セトウ)。宇氣比(ケヒテ)白(タテマツリキ)。龍田風神祭祝詞ヨ。天下公民乃作(トル)物乎。不(ズ)成(ナシ)傷(ヘル)神等波。我心曾止悟(シ)奉禮止宇氣比賜(タベヒキ)支。などあるハ。祈字を書るヨ近き意なり。されど祈字のみヨてハ。義を盡さず。又いと古く誓約をる意なるをもいへり。古事記上巻ヨ。天照大御神。詔然者(イマシノコロ)汝心之清明何以知(アカキコトハイカニテシラマシト)。於是速須佐之男命。答(ヘマシタヒキ)曰各(クウケヒテ)宇氣比而生子(ムトミコ)。

云くとありて。日本紀ハ。請與姉共誓。夫誓約之中。誓約之中此云宇氣譬能美儺箇必當生子云ことあるハ。誓とも。誓約とも書る字義なるべし。今の俗言ハ。受合と云ことのあるハ。をなりと云説さもあるべし。又自思事の成むならゞの驗を見せ賜へと願ひて祈る事を云さることを殊ハ多し。日本紀神武天皇巻ハ。天皇是夜自祈而寢。夢有天神訓之曰。云ゝ。如此則虜自平伏云て。まゝ椎根津彦乃祈之曰。我皇當能定此國者。行路自通。如不能者。賊必防禦云ゝ。天皇又祈之曰。吾今當以嚴瓮沉于丹生之川。如魚無大小悉醉而流。譬猶被葉之浮流者。吾必能定此國。如不爾終無所成云ゝ。神功皇后巻ハ。麛坂王。忍熊王。共出菟餓野而祈狩之曰。祈狩此云于氣比餓利。若有成事必獲良獸也。二王各居假庪。赤猪忽出之登假庪。咋麛坂王而殺焉。云ゝなど見えさる如し。さて又誓約をることを。後ハ知可布と云ハ常なり。古くハ見えず。その知加布を又宇氣布と云ることあり。長明ぞ四季物語ハ。昔より松の尾の宮居ハ。此みやしろ賀茂深き御うけひたてして。とある類なり。又後ハ。人のうへをいのりて。あしくなることハ云るハ。いとくく轉變るものなり。伊勢物語ハ。罪もなき人をうけへバそれ草。己ぞうへハそれたふといふなると云る類なり。かゝる類をバ。古くハ呪詛とこそい

ひとれ。

うそらび　ウスゴホリ

廿巻五十四丁よ。佐保河波尓。許保里和多礼留。宇須良比乃。宇須伎許己呂乎。和我於毛波奈久尓とあり。ウスゴホリのことなり。

うとて　ヒヨンナコト

十巻十二丁よ。吾屋前之毛桃之下尓。月夜指。下心苦。菟楯頃。苦ハ舊本ヨ吉ヨ誤れり。とあるハ。ヒヨンナコト頃者下心ガナヤマシイ哉となり。十一丁よ。若月。清不見。雲隱見欲。宇多手比日とあるハ。ヒヨンナコトコノ頃見タイとの謂なり。十

二五丁よ。何時奈毛。不戀有登者。雖不有。得田直比來。戀之繁母。とあるも同じ。廿巻十三丁よ。秋等伊弊波。許己呂曽伊多伎宇多豆家尓。花尓奈蘇倍豆。見麻久保里香聞。とある宇多豆家尓ハ。ヒヨンナコトトリワキテの意なり。さてこの句ハ。第一句の次よめぐらして。秋トイヘバヒヨンナコトトリワキテ。心ガサアイタイと云意なり。古事記須佐之男命の惡行を為給ふ所よ。猶其惡態不止而轉云くと見え。後くよも。轉字をウタヽとよめるハ。からぶみよ。心轉迷などある轉字の意なり。源氏物語葵上よ。紫の上の髪のことをうとて所せうもあるのれ。いのふれひや

らむとそらむ。とあるうさてハ。トリワキテの意よも。又
轉字の意よも聞えさり。同巻よ。年ころあをれと思ひき
こえつるハ。かさなしよもあらざりけり。人の心こそう
さてあるものハあれ。とあるも同じ。新撰萬葉よ。散祇見
手。可有物緒。梅花。別様匂之。袖丹駐礼留とあるも。ヒヨン
ナコト散テ後モ。ニホヒノ袖ニ殘ツテヲルとの意よて。
別様と書れさるあり。此餘。平穩よ尋常ならぬことをい
へるも。皆右の意より轉ぷさるものなるべし。

うふがさ　アブナゲ　チヨツト

十二ナセ丁よ。歌方毛。曰管毛有鹿。吾有者。地庭不落。空消生。

とあるハ。アブナゲニイヒテサアル哉の意なり。十七ハ丁
よ。大船乃。宇倍尓之居婆。安麻久毛乃。多度伎毛思良受。歌
方和我世。とあるも同じ。十五七丁よ。波奈礼蘇尓。多氐流牟
漏能木。宇多我多毛。比左之伎時乎。須疑尓家流香母とあ
るハ。チヨツトノマニの意なり。十七十八丁よ。安麻射加流。
比奈尓安流和礼乎。宇多我多毛。比母登吉佐氣底。於毛保
須良米也。とあるも同じ。内ニアツタ間。女房ガ結ンダ紐
ヲ解ハナサズシテ。夷ニアル吾ヲ。女房ハ吾カヤウニ思
フ如クニ。チヨツトノマモ思ハツシヤルマイニとの意
なり。同巻廿五丁よ。宇具比須能。伎奈久夜麻夫伎。宇多賀多

母・伎美我手數礼受・波奈知良米夜母とあるも・チヨーツト
モ手ハサハラセズの謂なり・

うつさへよ　ウチツケニ　ソツジニ

四巻十八丁よ・神樹尓毛・手者觸云乎・打細丹・人妻跡云者・不
觸物可聞とあるハ・打ツケニと云意なり・又ソツジニと
も聞べし・同巻五十七丁よ・打細尓・前垣乃酢堅・欲見・將行常云
哉・君乎見尓許曽・十巻九丁よ・打細尓・鳥者雖不喫・繩延・守巻
欲寸・梅花鴨・土左日記よ・うつさへよ忘れなむとよハあ
らで・こひしきこゝちもしやをめて・又もとふるちう
らよせむとなるべし・蜻蛉日記よ・うつさへよ秋の山へ

をさづね賜ふよハあらざりけり・忠見集よ・春雨ハ零初
よしの打さへふ・山を緑よなさむとや見し・歌林良材集
ふ・うつさへよあまさの人ハありといへど・ときてゝれ
しもよる獨宿・源氏蘭巻よ・うつさへよおもひもよらで・
とり為まふ御袖をひきうごかしさり云く・これらみふ
同じ・

うつら〳〵　タラ〳〵

廿巻四十六丁よ・奈豆之故我・波奈等里母知豆・宇都良くく・
美麻久能・冨之伎・吉美尓母安流加毎・土佐日記よ・目もう
つら〳〵神のたゝる〳〵を見しるどあり・俗よタラ〳〵と云よ

あされり。

うつしこゝろ　イキタコヽチ　シヤウ氣

十一四丁ヨ。健男現心吾無夜晝不云戀度十二十三丁ヨ。虛蟬之宇都思情毛吾者無妹乎不相見而年之經去者などあるハ生タコヽチモナシ。又ハシヤウ氣モナシとの意なり。十一四十二丁ヨ。玉緒之寫意哉年月乃行易及妹尓不逢將有十二廿四丁ヨ。内日刺宮庭有跡鴨頭草乃移情吾思名國。又四十一丁玉緒之徙意哉八十梶懸水手出牟船尓後而將居。などあるも同じ。

うつしまこ　ホンノコ

十九十五丁ヨ。欲其母理尓鳴霍公鳥從古昔可多理都藝都流鬻之宇都之真子可母云くとあるハ鬻ノホンノコ歟といふ意なり。真子の真ハホンノと云ヨハあらず。真ハゐゞ美稱ヨて子とのみ云ことを美くるなり。宇都之の言ホンノと云ヨあされり。

うつゝ　ホンマ

五卷十丁ヨ。宇豆都仁波安布余志勿奈子奴波多麻能用流能伊昧仁越都伎提美延許曽十七卅二丁ヨ。宿夜於知受伊米尓波見礼登宇都追尓之多太尓安良祢婆云くなどなホンマといふことなり。

うつしく　シヤウジン　シンジツ

四巻五十六丁ヨ。偽毛似付而曽為流打布裳真吾妹兒吾尓戀目八とあるハ。シヤウジンニ。或ハシンジツニといふ意なり。

うづなひ　御納受メサレ

十八丁ヨ。天地乃神安比宇豆奈比皇御祖乃御靈多須氣豆云くとあるハ。天神地祇ノ相共ニ御納受メサレテと云意なり。即此所を。續紀詔書ヨ。天坐神地坐神乃相宇豆奈比奉佐枳波倍奉利とあり。

うなゐけり　ソクビヲトリ

十八丁ヨ。多豆佐波利宇奈我既利為氏。於母保之吉。許登母加多良比。云くとあるハ。男女頸ヨ互ヨ手をうけ合て居る形を云て。今俗ヨソクビヲトルといふヨあされり。とおかえさり。古事記上巻ヨ。八千矛神。將婚高志國之沼河比賣ニ云く。如此歌即為宇岐由比而。宇那賀氣理豆至今鎮坐也。とあるも同じ。宇都保物語ヨ。うなゐけり親のなでやしなひ。まひしときハ云く。とあるハ。親の子を抱て撫育ふ形を云るなり。

うはへなき　不都合ナ　アイソナイ

四巻廿六丁ヨ。宇波弊無物可聞人者。然許。遠家路乎。令還念

者。同巻四十五丁よ。得羽重無。妹二毛有鴨。如此許。人情乎。令盡念者。などあり。此詞ハ俗よ不都合ナと云意よきこえさり。本居氏ハ。宇波弊無ハ。俗よあいそなきといふ意よて。中昔の物語などよ。あへなきと云る言ハ。此宇波弊無の轉さるよて。同じ意よ聞ゆと云り。さてもまさ通ゆ。

うはぎ　ヨメガハギ　ヨメナ

二巻四十二丁よ。妻毛有者。採而多宜麻之。佐美乃山。野上乃宇波疑。過去計良受也。十巻十一丁よ。春日野尓。煙立所見。嫐嬬等四。春野之苑芽子。採而煮良思文。などある宇波疑ハ。俗よいふヨメガハギのことなり。土佐よてハヨメナと称ひ。

うべ　ゲニ　モツトモ　ドウリ

四巻五十七丁よ。夢尓谷。將所見常吾者。保杼毛友。不相志思。諾不所見有武とあるハ。俗よゲニモツトモナ事ゾと云意なり。十三廿丁よ。諾く名。母者不知。諾く名。父者不知とあるハ。俗よ母ノ知ヌハドウリく。父ノシラヌハドウリくと云意なり。古事記景行天皇條。美夜受姫御歌よ。宇倍那宇倍那。岐美麻知賀多尓。和賀祁勢流。意須比能須蘇尓。都紀多く那牟余。日本紀神武天皇巻よ。天照大神曰諾云く。諾此云宇毎那利など見えさり。處よよりてゲニとも。モツ

トモとも。ドウリとも譯すべし。

うまし　結構ナ

一、巻七丁ヨ。阿怜國曽。蜻島。八間跡能國者とあるハ。俗ヨ結構ナ國ソと云意なり。宇麻志ハ。後世ハ。あゞ食物の味ヨのこつきていへれど。古ハ然のみならぞ。心ヨも耳ヨも目ヨも口ヨも。美好きをバ皆贊めていへり。可怜御路。可怜小汀。など古語ヨいへる。皆同意なり。

うまはる　ハンジヤウ

十六丁ヨ。寺〻之。女餓鬼申久。大神乃。男餓鬼被賜而。其子將播とあるハ。其子ヲハンジヤウセウと云意なり。

うまひとさびて　レキ〻衆ブツテ

二、巻十一丁ヨ。水鷰苅。信濃乃真弓。吾引者。宇真人佐備而。不言常將言可聞とあるハ。レキ〻衆ブツテ。ソコモトナドノ下衆ニアフコトハイヤヂヤ。トオツシヤラウカと云意なり。なホさ、部さび、條見合べし。

うまだきゆきて　馬ヒツパリイテ

十九十一丁ヨ。石瀬野尓。馬太伎由吉氐。乎知許知尓。鳥布美立。云〻とあるハ。乘ツタ馬ノ手綱ヲヒツパリイテと云意なり。十四十九丁ヨ。左奈都良能。乎可尓安波麻伎。可奈之伎我。古麻波多具等毛。和波素登毛波自。とあるも同ジく。多

具ハ多ぐるゝて手綱をさぐることなり古今集ゝあまの繩多ぎとある。さぎの言も同じ。さて馬多藝と多を清、藝を濁て唱べきを太伎と太を濁ア伎を清て唱ふるハ古への一ッの音便ゝて夜降を夜具多知と云ゝ全同じ。

うみへ　ウミバタ

二巻十八丁ゝ鯨魚取海邊乎指而云く十五四丁ゝ君之由久海邊乃夜杼尓奇里多く婆安我多知奈氣久伊伎茅之理麻勢十八八丁ゝ波万部余里和我宇知由可波宇美邊欲利牟可倍母許奴可安麻能都里夫祢などあり。これらの海邊をウナヒと訓ハひゞのことなり。いづれも十八の假字書ゝよりて宇美敝と訓べし。日本紀竟宴歌ゝも佐く奈美乃與須留宇美倍尓美夜波之女與く尓多江奴加支美加美乃知波知ハ利の誤古今集ゝ明州といふ宇美敝ゝて云云。土左日記ゝもー宇美敝ゝてよまゝーあバ云くなどあり。海邊をウナヒと云ること。古より後までゝ見えることなし。十四八丁ゝ奈都蘇妣久宇奈比乎左之氐とある。宇奈比ハ地名ゝて別なり。思混ふべからず。

うらなげ　トイキヲツク

一巻八丁ゝ村肝乃心乎痛見奴要子鳥卜歎居者云く十巻廿五丁ゝ奴延鳥之裏歎座津又奴延鳥浦歎居十七廿二丁ゝ

奴要鳥能宇良奈氣之都追、氣め清音の假名を用ひさるバ、必奈宜と濁ハ正しからず、歎の字意なれるべきなり、などあるうち、ト歎、浦歎など書るハ、ともよ借字よて、裏歎とあるそ正字なる、裏ハ、裏悲し、裏戀しなどの裏よて、裏よ歎きて、表よ人の知べくあらハさず、

トイキヲツイテ居ルと云意なり、

うらぶれ　ホレぐ

十、巻　卅九丁　よ、於君戀裏觸居者、敷野之、秋芽子凌、左牡鹿鳴毛、又同　卅九丁　雁來、芽子者散跡、左小牡鹿之、鳴成音毛、裏觸丹來

などある、裏觸ハ恍惚として愁ひ憐しむ形なり、

うらもなく　如在モナウ　何心モナウ

十二　十四丁　よ、椽之、一重衣、裏毛無、將有兒故、戀渡可聞とあるハ、俗よ如在モナウと云意なり、同巻　卅七丁　よ、浦毛無、去之君故、朝旦、本名烏戀、相跡者無杼、とあるも同意なり、十三　卅二丁　よ、浦裳無、所宿人者云く、十四　十八丁　よ、宇良毛奈久、和我由久、美知尓、安乎夜冝乃、波里氐多氐、礼婆、物能毛比豆都母、などあるハ、何心モナウと云意よ聞えさり、伊勢物語よ、初草のなどめづらしき言の葉ぞ、うらなく物を思ひけるゐれ、かげろふ日記よ、夜もうらなう打臥て寢さり、源氏物語帚木よ、思ひ出しまゝよまゐりさりしこのむ、例のうらもなきものうら、いと物思ひぶかよて云く、

枕冊子ヨ。あ〜と人ヨいをるゝ人さるハよしとおられ
こるよりハ。うらなくぞ見ゆる。などあるハ。如在ナウと
いふ意ヨきこゆる所も。何心ナウと云意ヨきこゆる所
もあり。

うら〜ヨ　ユツクリト　ノドカニ

十九四十八丁ヨ。宇良〜く尓。照流春日尓。比婆理安我里。情悲
毛。比登里志於母倍婆。とある宇良〜くハ。ユツクリト。或
ハノドカニといふ意なり。

うらみ　ウラノメグラ

九巻八丁ヨ。湯羅乃前。塩乾尓祈良志。白神之磯浦箕乎。敢而
捞動。十一丁ヨ。住吉之城師乃浦箕尓。布浪之數妹乎。見
因欲得。これらヨよりて。浦回と書る處をもみあウラミ。
と訓べし。九巻丁ヨ。裏末。十四三丁又十五ヨ。五處十一丁十二丁
十六丁十九丁二十七丁十八ヨ。二處六丁八丁宇良末とある。末ハ未字の
誤なり。某麻といへることハ。あることなし。

うらみする　ウラマハリスル

十九廿四丁ヨ。藤奈美乎。借廬尓造。灣回為流人等波不知尓。
海部等可見良牟とあるハ。浦マハリヲシテアソビメグ
ル人トハシラズニ。との意なり。

うらさぶる　コヽロノウチガオチツカズ　キゲンラソコ子

一、巻卅丁ヨ。浦佐夫流。情佐麻祢之。久堅乃。天之四具礼能。流
相見者とあるハ。シグレノ絶ズフルヲ見レバ。イトヾ旅
中ノモノウイ心ノウチガ落ツカズシテ。シン〳〵トシタ
コヽロガ。ナホ更シゲウナーツタと云意なり。同巻十七丁ヨ。
樂浪乃。國津美神乃。浦佐備而。荒有京。見者悲毛とあるハ。
國津御神トテ。其土地ノ鎮座ノ神様ノ御キゲンヲソコ
子テ。全盛テアーツタ都ヲ市アラシ被成タといふなり。二、
巻卅九丁ヨ。晝羽裳。浦不樂晩とあるハ。心ノウチガ落着ズ。
サビシウ日ヲ晩ス。といふ意なり。
うらぐはし　アクコヽチガナイ

十三丁ヨ。三諸者。人之守山。云く。浦妙山曽。泣兒守山とあ
るハ。見レバ見ルホドオモシロウテアクコヽチガナイ
山ゾとの義なり。同巻五丁ヨ。朝日奈須。目細毛。暮日奈須。浦
細毛云く。十七卅丁ヨ。宇良具波之。布勢能美豆宇弥尓。云
云。日本紀雄畧天皇御歌ヨ。據暮利矩能。播都制能夜麻播。
阿夜你于羅虞波斯。阿夜你于羅虞波斯。などあるみれ同
じ。
うる○うれ　エル
殖留ハ。俗ヨウエル。居留ハ。俗ヨスエルといふヨ同じ。殖
礼。居礼。など云宇礼も。許曽のかゝりの結の異なるのみ

よて、譯言ハ同じ。

うれむそ　ドウシテカ

三、巻廿丁よ海若之、奥尓持行而、雖放、宇礼牟曾此之、將死還生とあるハ、ドウシテカコノモノガといふ意なり。十一巻十二丁よ平山子松末有廉叙波、我思妹不相止嘗とあるも同じ。

うれさく　ツラニクウ

八、巻廿丁よ宇礼多伎也、志許霍公鳥、曉之裏悲尓、雖追くく、尚來鳴而云く、十、巻廿丁よ慨哉、四去霍公鳥、云くなどあるハ、ツラニクヤの謂なり。古事記八千矛神御歌よ宇礼多久母、那久那留登理加、云く、日本紀神武天皇巻よ慨哉、此云宇黎多棄伽夜、伊勢物語よ葎生てあれさるやどのうれさきハ、かりよもおよのをだくなりけり、神樂歌よきりぎりをのねさうれさや云く、なども見えさり。

うれ　スヱ　コズヱ

十、巻五丁よ打靡春立奴良之、吾門之柳乃宇礼尓、鶯鳴都とある、宇礼ハ末枝の縮れるよて、ラエ、切レ、コズエとなる。梢のことあり。集中よ多し。

○え、部

え　一下通

十八十六丁より。故敷等伊敷波・衣毛名豆氣多理・伊布須敝能・多豆伎母奈吉波・安賀未奈里家利とあるハ。ヒト通ニモ名付タの意ときこえたり。伊勢物語より。いへぞえはいたねバ胸よさわぐれて。心ひとつよ歎く頃哉とよめるえも同じ。ゐるべし。此歌を高尚ぶ新釋より。えよハ不得なり。不知を忘らよと云るより同じと云るハ。ひぶことなり。不得の意ならバ。ゐひをえより。とこそいふべきことなれ。

えをや　ヨウセウカ

十一丁より。面忘・太尓毛得為也登手握而雖打不塞戀之奴とあるを。ヨウセウカといふ意なり。十二丁廿四より。玉勝間。安倍島山之暮露尓旅宿得為也長此夜乎とあるも同じ。常よりようそろ。ようせぬなど云ハ。得為不得為よりゆく。ようゆのぬと云ハ。得行不得行と云ことなり。さて不得為不得行などいふをこともなけれど。得為得行など云ハ。今世よハ耳なれぬことなれど。俗言のようそろ。ようゆくハ。雅言の得為得行を訛りさるものなれバ。もとよりの雅言よハかくいへるなり。

えむ　エウ

将榮ハサカエウ。将絶ハタエウ。将消ハキエウといふ意あり。

えゆく　ヨウイク

十、巻廿三丁ヨ、彦星之川瀬渡左小舟乃得行而將泊河津石所念とあるハ、ヨウイテといふ意なり、

○ね、部

ねきて　ノケテ

五、巻廿九丁ヨ、安礼乎於伎豆人者安良自等冨已呂倍騰寒、之安礼婆云くとあるハ、吾ヲノケテと云意なり、十二丁ヨ、淡海之海邊多波人知奥浪君乎置者知人毛無とあるハ、君ヲノケテハと云意なり、古事記上巻須勢理毘賣命、御歌ヨ、那遠岐氐遠婆那志那遠岐氐都麻波那斯云くとあるも、那遠岐氐ハ、汝を除而ヨて同じ、

ねぎろなき　ハテノナイ

廿、巻廿五丁ヨ、難波海のさまを曽伎太久毛於藝呂奈伎可毋云くとあるハ、海上の廣く寛よして、至り極る處のなき謂ときこえたり、按ヨ、常ふ頤字をオギロと訓も、もとオギロナキといふべき理なるを、後人の謾よりづらをしきをいとひて、オギロと畧訓せるものとこそおもはれ、頤字ハ、字書ヨ、幽深難見也と注しされバ、オギロナキと云ヨあさまり、

ねきなさび　トシヨリメキ　トシヨリブリ

さ部、さび條合考べし。伊勢物語よ、翁さび人なとゞめそかり衣、けふぞうりとぞさづもなくなるとあるハ、芹河行幸の時、鷹飼よて侍らひける翁の、狩衣のさもとよ、鶴のかさを作ヱ書付さるよしなり。これハ翁の獵場のなごりと思ふよりて、狩衣の袂よ鶴の形をぬひなど、心やりよ花やうなるさまをさるを、人なとゞめそ、鷹狩も今日ぞうりぞ、といふ意よきこえさり。古、よいへるを、翁佐備ハ翁メキ、壯士佐備ハ壯士メキ、壯女佐備ハ壯女メキといふことなるを、かの物語なるハ、翁めゝぞ、似氣なきふるまひをさるを、翁さびと云ヱときこえさるハ言のもとを、後よ心得さゞへさるもの歟。

たくりまをして　御見立申シテ

五巻廿五丁よ、阿摩等夫夜、等利尓母賀母夜、美夜故摩提、意久利摩遠志豆、等比可弊流母能とあるハ、御見立申シテと云意なり。

たくれ　ノコサレ

二巻十五丁よ、遺居而、戀管不有者、追及武道之阿田尓、標結吾勢とあるハ、ノコサレ居テの意なり八巻十八丁よ、難波邊尓、人之行波、後居而、春菜採兒乎、見之悲也、九巻九丁よ、後居而、吾戀居者、白雲、棚引山乎、今日香越濫、などある同じ

十七四十三丁ヨ.無良等理能.安佐太知伊奈婆.於久礼多流.阿礼也可奈之伎とあるも.ノコサレタの意なり.古今集離別ヨ.限りなき雲居のよそよ別るとも.人を心よたくらさむやはとあるも.心ノ中ニノコシオキハスマイとの謂なり.

むくのイキハテ

五,巻ヨ.常斯良奴.國乃意久迦遠.百重山.超豆須疑由伎云くとあるハ.國の奥處よて.國ノイキハテと云ことなり.十七八丁ヨ.大海乃.於久可母之良受.由久和礼乎.何時伎麻佐武等.問之兒等波母.とあるも同じ.

むそアホウ

二,巻十六丁ヨ遊士跡.吾者聞流乎.屋戸不借.吾乎還利.於曽能風流士とあるハ.アホウナ風流士ゾとの謂なり.九,巻十九丁ヨ.常世邊.可住物乎.劔刀.己之心柄.於曽也是君とあるも.アホウナコトヤ是君との謂なり.

むちぞノコラズ ノコサズ

一,巻八丁ヨ.山越乃.風乎時自見.寐夜不落.家在妹乎.懸而小竹櫃とあるハ.ノコラズといふ意なり.同巻九丁ヨ.川隈之八十阿不落とあるハ.八十ト數多イ隈くヲ一ツモ残サズの謂なり.四,巻十七丁ヨ.蓋世流衣之.針目不落.古事記上

巻須勢理毘賣命御歌ヨ。伊蘇能佐岐淤知受續紀三十四詔ヨ。年緒不落ヨどあるヨ。みれ同じことまて。ノコラズ。あるハノコサズの意ヨもきこゆ。祈年祭祝詞ヨ。島之八十島墜事無とも見えさ。

たどろく　目ヲサマス

四巻五十二丁ヨ。夢之相者。苦有家里。覺而。搔探友手二毛不所觸者とあるハ。目ヲ寤イテと云意なり。こゝハ物の音かどヨ驚懼く意ヨハあらぞ。ゐゞ睡れる目の寤る謂ゐり。今も土左國などヨてハ。常ヨ然云り。これ古言の存れるなり。古事記ヨ。天詔琴拂樹地動鳴。故所寢大神聞驚而云

云。源氏若紫巻ヨ。まざたどろい賜そ。いか御目さましきこえむ。花宴巻ヨ。人く多くさふらひて。おどろきさるもあれバ。枕冊子ヨ。あのつき方ヨ。いさゝうちゐそれてねいりさるヨ。雁のいと近う啼声ヨ。うちおどろきて見あげされバ。又月の頃ハ。ねおどろきて見いざそもいとをこ。古今著聞集和歌第六ヨ。思ふ事なげヨねさまへるうゝてさよとくどきけれバ。女驚きて。今昔物語亡妻吳値奮夫語ヨ。間もなく夜明て日のさゝ入さるヨ。男たどろきて妻を見るヨ。枯くとゝさる死人なり。などあるみれたなど。

たと　ウハサ

五巻廿六丁よ。於登尓吉岐。目尓波伊麻太見受。佐容比賣我。必礼布理伎等敷。吉美万通良楊満とあるハ。ウハサニバツカリキヽといふことなり。七巻七丁よ。音聞。目者未見。吉野河。六田之與杼乎。今日見鶴鴨。とあるも同じ。

たとはやみ　音高サニ

十一廿四丁よ。奥山之。真木之板戸乎。音速見。妹之當乃。霜上尓宿奴とあるて。音ガ高サニの意なり。

たの○たのれ　ジブン　拙者　ワレラ

十六十丁よ。豈藻不在。自身之柄。人子之事藻不盡。我藻將依。とある自ハ自分。或ハ拙者。或ハワレラといふことなり。十二廿八丁よ。於能礼故。所詈而居者。駿馬之面高夫駄尓乘而應來哉。とある於能礼も同じ。

たのごゝ　ワレトワガデニ

十二十丁よ。各寺師。人死為良志。妹尓戀。日異羸沼。人丹不所知とあるハ。ワレトワガデニ戀ニ令死ルワザヤソウナの意よきこえさり。拾遺集よ。秋風よ四方の山よりたのごゝ。ぬくよ散ぬる紅葉うれしな。源氏橋姫よ。春のうらゝのなるひうげよ。池の水鳥どもの羽打かたしつつ。たのごゝさへづる聲などを。つねハたゝきこと

と見賜ひしうども云く。これらハ常ヨ面くニと云意ヨ用ひさり。

たふる　ハヘル

二巻ヨ。石橋生靡留王藻毛叙絶者生流打橋生乎烏礼流川藻毛叙干者波由流云くとある生流ハ。ハヘルといふことあり。

たかつのなく　サツパリセヌ　ハツキリトセヌ　コヽロモトナイ

八巻ヨ。水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保束無毛所念可聞とあるハ。サツハリトセズ胸塞ガツテ思ウとの謂なり。上よりハ春山の木闇くて方角の分ヒざきよりいひつばけさり。十巻ヨ。今夜乃於保束無荷霍公鳥喧奈流聲之音乃遥左まさ春去者紀之許能暮之夕月夜麟束無裳山陰尓指天などあるも准て知べし。又ハツキリトセヌとも譯すべし。伊勢物語ヨいうでものごしまざに對面して。たかつのなく思ひつめさることを。そこしをるのさむといひけれバ。云くとあるも。サツパリセズグドグドト思ヒツメタコトと云意ヨて。そハ雲霧などの。闇く立ふさぎりさるやうの意ぞえなれバ。其たかつのなき思を止らにるを。晴のをとといへるなり。又所ヨりても。コヽロモトナイとも聞べし。

たほゝしく　キモツレシテ　分明ナラズ

二巻丁九ゟ夢尓谷不見在之物乎欝悒宮出毛為鹿作日之隈回乎五巻丁廿六ゟ國遠伎路乃長手遠意保く斯久許布夜須疑南己等騰比母奈久十四五丁三十ゟ於能豆麻乎比登乃左刀尓於吉於保く思久見都く曽伎奴流許能美知乃安比太などあるハ心の結ぶゝれふさぐ〳〵さるやうのことを云て俗ゟキモツレシテといふことなり十一丁九ゟ雲間從狭經月乃於保く思久相見子等乎見因鴨六巻丁廿七ゟ不清照有月夜乃十巻丁十六ゟ不明公乎相見而などある類ハ分明ナラズといふ意なり

たわとる　ワゴル

十六丁廿四ゟ葭葵尓延於保登礼流屎葛絶事無宦將為とあるハ蔓ワゴツテヲルと云意なり枕冊子ゟ芒の事を冬の末まで首の白くたわとるも知ず昔思出顔ゟ風ゟなびきてかひろきさてる人ゟこそいみしうにさめれ源氏物語東屋ゟ程もなう明ぬるこゝちをるゟ烏などえなうでたわちゝうき所たわとれさる声して いのゟとうきゝもちらぬ名のりをして打むれて行などそきこゆる手習ゟかみのをそのゟたわとれさるやうゟちどけなくさへそがれさる むつかしきことゝも

いなで。つくろえむ人もぞれ。などあるみな同意なり。

たほろか○たろの　ザーット　大テイ

六、巻廿六丁ゑ。丈夫之。去跡云道曽。凡可尓。念而行勿。丈夫之伴十九十四丁ゑ。知智乃實乃。父能美許等。波播蘇葉乃。母能美己等。於保呂可尓。情盡而念良牟。其子奈礼夜母。廿巻五十一丁ゑ。於煩呂可尓。己許呂於毛比豆。牟奈許等母。於夜乃名多都奈。日本紀仁德天皇、御歌ゑ。菟怒瑳波赴。以破能臂謎餓。飫朋呂伽珥。枳許瑳怒などあるハ。俗ゑザーット。又大テイと云むの如し。十八九丁ゑ。於呂可尓曽。和礼波於母比之。とある於呂可も。同意なり。

たほゑ　ザーット　オホダ、イ

二、巻四十一丁ゑ。天數。凡津子之。相日。於保尓見敷者。今悔敷。三、巻五十八丁ゑ。吾王。天所知牟登。不思者。於保尓曽見谿流。和豆香蘇麻山。七、巻二十三丁ゑ。人社者。意保尓毛言目。我幾許。師奴布川原乎。標結勿謹。又卅二丁佐保山乎。於凡尓見之鹿跡。今見者。山夏香思母。風吹莫勤。などある於保尓も。俗ゑザーットといふ意なり。又オホダ、イとも譯すべし。

たほかさ　タイガイ　タイガイノコト

十一十六丁ゑ。凡乃。行者不念。言故。人尓事痛。所云物乎。又十九丁凡。吾之念者。如是許。難御門乎。退出米也母とあるハ。タ

イガイニといふ意なり.十二ハ丁ヨ.何時左右ニ.將生命曾.
凡者.戀乍不有者.死上有.又九丁大方者.何鴨將戀.言舉不為.
妹尓依宿牟.年者近綾などあるハ.タイガイノコトナラ
の意なり.

たかならバ　タイガイノコトナラ

六巻三丁ヨ.凡者.左毛右毛將為乎.恐跡.振痛袖乎.忍而有
香聞.十一十六丁ヨ.凡者.誰將見鴨.黒玉乃.我玄髪乎.靡而將
居などあるハ.タイガイノコトナラといふ意なり.

たほを　シヤーウイクスル

廿巻四十六丁ヨ.麻比之都く.伎美我於保世流.奈豆之故我.波
奈乃未等波無.伎美奈良奈良奈久尓とあるハ.君ゐ生育シタ
といふ意なり.

たみのき　モミノキ

三巻丁ハヨ.三湯之上乃.樹村乎見者.臣木毛.生繼尓家利.
云くとあるハ.今俗ヨ云モミノキなり.

たもほゆ　オモハレル

一巻九丁ヨ.金野乃.美草苅葺.屋杼礼里之.兎道乃宮子能.借
五百磯所念とあるハ.オモハレルと云意なり.集中ヨ多
き詞なり.

たもはぬヨ　オモヒガケモナイニ

三巻五十一丁に昨日社公者在然不思尓濱松之上於雲棚引とあるハ思ヒガケモナイニの意なり四巻四十八丁に不念尓妹之咲儛乎夢見而心中二燎管曽呼留五巻卅九丁悲男子歌に大船乃於毛比多能无尓於毛波奴尓横風乃云く八巻十七丁に霜雪毛未過者不思尓春日里尓梅花見都るどあるみれ同じ

たもひわび○たもひわぶれ　オモヒクタビレ　オモヒアグンデ

四巻卅九丁に丈夫之思和備乍遍多嘆久嘆乎不負物可聞十二卅七丁に國遠見念勿和備曽風之共雲之行如言者將通などあるハオモヒクタビレ或ハオモヒアグンデの意にきこえとり十五卅五丁に多知可敝里奈氣杼毛安礼波之流思奈美於毛比和夫礼呂奴流欲之曽於保伎とあるも同じ

たもひはふる　オモヒハナス　オモヒステル

十三卅九丁に劔刀磨之心乎天雲尓念散之展轉土打哭杼母飽不足可聞とあるハ赤心ヲ磨清メタセンナケレバ天雲ノヤウニオモヒハナシとの謂なり或ハオモヒステルといふ義なり源氏物語夕顔に かゝる道の空にて ゑふれぬべきにやあらむ赤石に かくながら身をゑふらゝつるにや と心ぼそうたゞせど などあるゑふる

も同じ。

たもひやる　キヲハラス

一、巻八丁　よ。草枕客尓之有者。思遣鶴寸乎白土。云く。十七四十三丁　よ。安遠尓與之。奈良乎伎波奈礼。阿麻射可流。比奈尓波安礼登。和賀勢故乎。見都追志乎礼婆。於毛比夜流。許等母安利之乎云く。などある思遣ハ。憂思を遣失ふ意よて。俗よ氣ヲ晴スといふことなり。後世。想像をるを思ひやると云ど。古よハさることなし。

たもふどち　スイタドウシ

と。部どち。條よ出。

たもへり　カホモチ

四、巻五十四丁　よ。夜之穂杼呂。吾出而來者。吾妹子之。念有四九四面影二三湯とあるハ。心中よたもへることの色よあらむれさるを云て。カホモチのことなり。應神天皇紀よ。天皇有不悅之色。云く察天皇色。允恭天皇紀よ。皇后之色不平。雄略天皇紀よ。大樹臣神色不變。武烈天皇紀よ。忍不發顏。敏達天皇紀よ。現嚴猛色。天武天皇紀よ。有不服色ど。色字。まさ顏字を訓る。みな同意なり。

たもなく　メンボクナウ　ハヅカシウ

一、巻廿五丁　よ。暮相而。朝面無美。隱尓加。氣長妹之。廬利為里

計武八巻廿五丁ヨ暮相而朝面羞隱野乃芽子者散去寸黄
葉早續也などある面無美ハ面目ノ無サニ或ハハヅカ
シサニの意なり交さる翌朝羞かしくて面隱するよし
もて隱の序とせるなり

たよづれ　イヒナシ　ドクレグチ

三巻五十四丁ヨ石田王卒之時丹生王作歌ヨ於余頭礼可吾
聞都流母十七丁ヨ一家持卿遥聞弟喪作歌ヨ於餘豆礼能
多波許登可毛などある於餘頭礼ハイヒナシ或ハドク
レグチのことゝきこゆ天智天皇紀ヨ復禁斷姪忘妖偽
天武天皇紀ヨ妖言而自刎死之續紀ヨ左大臣藤原朝臣

長手薨時光仁天皇詔詞中ヨ於與豆禮加母多波許止乎
加母云々などある見えたり

たろすゑ　オロシスエ

廿巻二十六丁ヨ奈尓波都爾美不祢於呂須恵夜蘇加奴伎伊
麻波許伎奴等伊母爾都氣許曽とあるハオロシスエと
いふことなり